
造形教育の新天地！
ワイワイ 埼玉 Artlearntis

－ 〈1年次〉 －



入間市立西武小学校 3年 渡部 琉成
「お天気システム新かん線」

目 次

挨拶	埼玉県美術教育連盟長	勝山寛美	2
	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導科指導主事	采澤敬	3
	さいたま市教育委員会学校教育部指導1課指導主事	山岸啓介	3
身体障害者福祉のための児童生徒美術展	特別賞作品より		4
郷土を描く児童生徒美術展	特別賞作品より		8
埼玉県児童生徒美術展中央展（昨年度の受賞作品）			12
関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会基調提案			13
関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会経過報告会案内			17
関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会経過報告会	分科会の報告		22
記録	令和4年度埼玉県美術教育連盟役員		48
	令和4年度埼玉県美術教育連盟会則		50
	令和4年度事業概要		51
埼玉県美術教育連盟の足跡を顧みて			53

つながりに感謝

埼玉県美術教育連盟長 勝山寛美



令和4年度を締めくくるに当たり、埼玉県美術教育連盟の各事業に多大なるご尽力をいただいた役員の皆様と諸先生方に厚くお礼を申し上げます。

さて、世の中はwithコロナへと少しずつシフトしていると感じますが、学校現場においては、子どもの安心・安全の確保を第一に考えると何かと制限の多い1年となりました。しかし、制限が多い子どもたちのために、図工・美術教員のために何ができるのかという共通の思いから、これまで以上に美連関係者の皆様とのつながりが一層深まったと感じております。ありがとうございました。

「第64回身体障害者福祉のための埼玉県児童生徒美術展覧会」や「第57回郷土を描く児童生徒美術展」には、多くの作品を出品していただきました。感染防止の徹底を図り、例年に近い数の作品に賞を贈ることができました。搬出入や審査などには、多くの先生方にご協力をいただきました。

令和5年11月17日(金)に行われる、第62回関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会と63回埼玉県造形教育研究大会に向けての経過報告会を11月16日(水)の午後からオンラインにより開催しました。大会テーマ『造形教育の新天地！ワイワイ埼玉 Artlearntis』の下、皆でつくり上げるプロセスを大切にして、本番へ向けそれぞれが自身の役目を理解し、知恵を出し合いチームとして準備を進めております。報告会を通じて研究の成果が県内各学校に拡散し、図画工作・美術教育の進展に大きな役割を果たしているものと信じております。

「第63回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展」は、例年に近い形で県内10地区において展示を行うことができました。

今年度、美連の情報発信のためのツールとして『美連ホームページ』を作成しました。7月末から運用を開始しておりますが、多くの皆様にアクセスしていただけるよう、更にPRしていきたいと考えています。今年度から会報「美連No.46」は、ホームページへの掲載をもって発刊としていきます。

結びに、本連盟の取組に多くのご指導とご協力を賜りました埼玉県教育局、さいたま市教育委員会を始めとする当該地区の教育委員会、主催団体、運営をいただいた皆様に改めて深く感謝を申し上げ、挨拶といたします。



作品から子供の活動の様子を見取る

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課
指導主事 采 澤 敬

埼玉県美術教育連盟「美連No.46」が刊行されますことを、心からお喜び申し上げます。貴連盟におかれましては、永年にわたり、埼玉県の造形教育の発展のために真摯に取り組まれ、多大な成果をあげられてきましたことに深く敬意を表します。

さて、学習指導要領では、深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要であると示されています。図画工作科、美術科の授業において「造形的な見方・考え方」を働かせた授業を実践するためには、教師自身が、その授業で「育成すべき力は何か」をしっかりと見極めた上で、指導を行う必要があります。例えば、表現と鑑賞を相互に関連させて学びにつなげるためには、どのような活動、場の設定、支援が必要か、活動の途中で鑑賞の場面が必要であるか等、児童生徒や学校・地域の実態に応じて、授業改善を図っていただければと思います。また、学習指導要領解説総則編の中で「学習の過程や成果を評価する」と示されているように、学習評価においては、学習の成果である作品だけでなく、それを創り出す学習の過程を一層重視することが大切です。授業中の子どもの活動の様子や完成した作品から、その子の活動する態度、観察や対話で捉えたこと、表現の変化、そこで育まれた資質・能力を見取り、評価へとつなげていただけたらと思います。

貴連盟が掲げている研究主題「きらめく感性 つくりだす喜び」は、まさに児童生徒の内面に目を向けた研究であり、造形的な創造活動における学びの意味や価値、重要性について、改めて考える機会をもたらします。今後も県内に研究の成果を広く発信することにより、本研究が造形教育に携わる先生方にとって授業改善を図る上での指針になって行くことを期待しております。

結びに、貴連盟の実践研究や事業がますます充実、発展されますことを御祈念申し上げまして挨拶いたします。



「新時代に向けて」

さいたま市教育委員会学校教育部指導1課
指導主事 山 岸 啓 介

美連会報No.46が刊行されますことに、心からお祝い申し上げます。また、貴連盟が組織的な教育研究活動を展開され、多大な成果を挙げておりますことに深く敬意を表します。

本年度は、令和5年度の第62回関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会に向けての経過報告会として、第63回埼玉県造形教育研究大会がオンラインで開催されました。各分科会の研究チームにより、表現の主題を深めていくための授業の工夫、地域の特性を生かし生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる題材の開発、造形的な視点を獲得するための実験的な試みなどが報告されました。いずれも、現代の造形教育における課題に真正面から向き合おうという、多くの先生方の情熱に溢れたものでした。来年度の本大会に向けては、大会テーマである「造形教育の新天地」の実現を目指して、予測困難な新時代を切り拓く力を育む教育に、より一層励まれることを願っております。

児童・生徒の資質・能力を育成する上では、図画工作・美術科においても、「指導と評価の一体化」の視点からの授業改善が求められています。子どもたちの学習成果を的確に捉えて教師の指導改善を図るとともに、子どもたち自身の学習改善につなげるのが重要です。作品からのみではなく、活動の過程や表現の変化を含めて評価し、子どもたち一人ひとりの思いを大切にしながら、さらなる授業改善を進めていただければと考えます。

結びに、貴連盟の活動の成果を広く共有していただき、埼玉県及びさいたま市の図画工作・美術教育の充実を願うとともに、貴連盟のますますの発展を御祈念申し上げ、あいさついたします。

身体障害者福祉のための児童生徒美術展 特別賞作品より



さるののはのけんさをしているよ!
羽生・三田ヶ谷小 1年 戸山 晴喜



ダンス大すき くるくる おどろう
さいたま・大谷口小 1年 青木 亜心



せかいいち おおきな さかな
吉見・東第一小 1年 蛭間 蒼



たからさがし
熊谷・久下小 1年 小川 拓美



きよ大なだいこんのありのすホテル
秩父・高篠小 2年 町田 伊吹



たべてもたべてもなくなるらないトマトのはし
さいたま・常盤小 2年 及川 舞依



スイカマン
朝霞・朝霞第三小 2年 早川 岳



かにのおや子とおにごっこ
鴻巣・常光小 2年 長谷部愛莉



ワニ vs ピラニアのなわばりあらそい
桶川・朝日小 3年 細野太玖地



とてもきれいなコイにのって出発だ!
上里・賀美小 3年 魚見 汰月



土の中のひみつきち
幸手・吉田小 3年 山崎 悠貴



しばいぬロケット
小鹿野・小鹿野小 3年 大谷 文音



まじょたちのアトリエ山
羽生・羽生北小 4年 吉永 湊



星の光にてらされて
さいたま・本太小 4年 内野 裕貴



みんなで遊ぼう！プレッツリー
川越・大東西小 4年 檜木 颯飛



海の中の遊園地へようこそ
深谷・花園小 4年 市川心優奈



草のかけでかえるの町が...
秩父・大田小 5年 宮原善久朗



七つの感情
川口・原町小 5年 池田 結希



だれにも生きる権利をあたえてくれる花
ときがわ・明覚小 5年 中村 光佑



森の中のたから
神川・丹荘小 5年 布川 楓香



ワクワクドキドキがいっぱい
羽生・村君小 6年 佐久間祐子



六年生になりました
三郷・瑞木小 6年 佐藤奈悠帆



時間のドーナツを食べる私
本庄・本庄西小 6年 亀田アカリ



異次元リコーダー
入間・東金子小 6年 猪田 信紀



未来を見つめて

上尾・大石中 1年 加藤 咲良



にぎやかなあの街

さいたま・春里中 1年 松林 悠真



静かな倉庫

所沢・中央中 1年 長尾 将矢



今日のサヨナラ 帽子雲

羽生・南中 1年 寺田 椿



私のシューズ

寄居・城南中 1年 小島 芽唯



みんなで運動

戸田・戸田東中 1年 竹内 えり



私の白い靴

東秩父・東秩父中 1年 旭 瑛大



上を見る友達と美術室

宮代・須賀中 1年 鈴木 詩織



神社と王宮

川口・安行中 2年 小淵 結



静かな教室

熊谷・妻沼東中 2年 田中 唯



掃除の時間

蓮田・黒浜中 2年 池田 優子

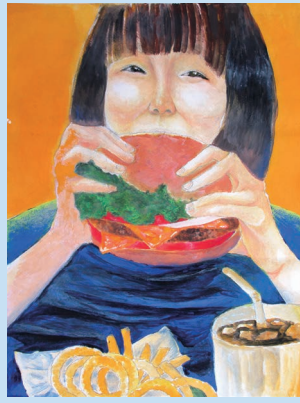


新しい考えがうかんだとき

行田・行田中 2年 村上 元基



少し変わった花火大会
東松山・東中 2年 澤田みゆき



食欲
さいたま・大宮西中 2年 佐藤 陽菜



気高き雑草
人間・金子中 2年 森 環貴



はかなげなクラゲ
伊奈・小針中 2年 八木 梨央



来世
本庄・本庄東中 3年 山田 美尋



表裏一体
朝霞・朝霞第二中 3年 下坪凜々子



自画像
上尾・上尾中 3年 柳澤 水織



切望のラスト
所沢・美原中 3年 東郷 静香



放課後の教室
蓮田・黒浜西中 3年 里澤 美咲



はなび
東松山・南中 3年 平木 心結



自画像
秩父・尾田蒔中 3年 内田 一璃



パレード
熊谷・吉岡中 3年 二宮瑛里楓

郷土を描く児童生徒美術展 特別賞作品より



こおろぎのおんがくかい
ふじみ野・西小 1年 宮下 晃輔



ひみつのおかしないえ
さいたま・岸小 1年 大畑 美玲



ロボットとわたし
鴻巣・下忍小 1年 三上 季穂



チョウのじょうおうのパレード
蓮田・黒浜小 1年 倉田 はる



きよだいきゅうりゅう
朝霞・朝霞第六小 2年 丹治 敦貴



トウモロコシがぬすまれた!
東松山・唐子小 2年 中村 柚月



ブロッコリーひろばに大しゅうごう
秩父・荒川西小 2年 町田 駿斗



くじゃくさんといっしょにあそんだよ
加須・鴻基小 2年 岡部 琥太郎



ねぎねぎランド
東松山・新明小 3年 加藤純一郎



とってもとってもうれしいな幻の子牛がうまれたよ
深谷・本郷小 3年 須藤 えま



大きな鳥と遊ぶ
鴻巣・屈巢小 3年 丸山 颯介



トンボにのってサルビア畑にゴー
上里・賀美小 3年 桜井 小春



土手からのけしき
川口・原町小 4年 神山 和也



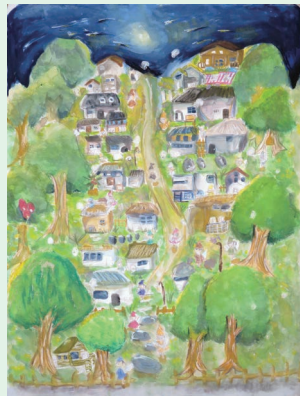
自然いっぱい ひみつの公園
羽生・三田ヶ谷小 4年 儘田 龍征



まがまがしいぜったいに登れない山
上尾・中央小 4年 山田ことみ



青い空と大きな木
さいたま・上小小 4年 光本 蒼海



森の中のこびとの町
東松山・青島小 5年 神嶋 梨亜



海の中の鉄道博物館
三郷・立花小 5年 齋藤 耀太



「理想」を奏でて
戸田・新曾北小 5年 井上 千尋



田植えは大変 もう あきちゃった
皆野・国神小 5年 設楽 恵菜



カーテンたなびく いつもの教室
熊谷・籠原小 6年 井上 優華



ドキドキ 図書館
草加・西町小 6年 奥田 理埜



古墳に続く山門
羽生・村君小 6年 佐久間祐子



猪俣の伝統と歴史を語る背中
美里・大沢小 6年 上田 朱莉



銀色に光る鴨川と薄明の下校通路
上尾・大石中 1年 加藤 咲良



青い帰り道
朝霞・朝霞第三中 1年 小宮 千夏



石上神社の立派なねじれっ木
坂戸・若宮中 1年 井上 実咲



鎌形八幡宮
嵐山・菅谷中 1年 五十嵐和華



秩父の小京都 長泉院
秩父・秩父第二中 1年 金室 雄仁



夏の日に輪をくぐり 健康祈願
本庄・本庄南中 1年 関口 真央



夕暮れの静けさ
熊谷・荒川中 1年 関根明美里



岩槻の伝統産業
さいたま・城南中 1年 大土 久遠



昔と変わらない駅近のバス停
ふじみ野・葦原中 2年 黒澤 冴



夏の水路
越谷・大相模中 2年 田代 万実



部活の帰り道
さいたま・春里中 2年 長居 瑠唯



渴いた海
上尾・西中 2年 小田よつ葉



寄居橋

皆野・皆野中 2年 吉田 琉愛



短冊の空

本庄・本庄東中 2年 松本 美月



光のこぼれる神社

深谷・幡羅中 2年 小岩優唯奈



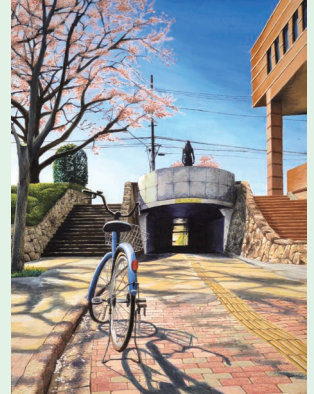
忍川の流れ

行田・太田中 2年 清水 瑛太



絵馬のトンネル

川越・大東中 3年 山下 凜空



春の図書館通り

東松山・東中 3年 米塚 壮汰



餌に集まる水の音、子の声、命の波紋

さいたま・大砂土中 3年 熊谷 颯音



私の母校

秩父・秩父第一中 3年 町田 陽向



踏切と快晴

美里・美里中 3年 吉野 永真



ゴムホース

深谷・岡部中 3年 吉田 尋喬



春の隅

加須・騎西中 3年 坂本 真衣



初雪の町

蓮田・黒浜中 3年 砂川まりな

第62回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展 第14回中央展覧会

県内10地区の審査会で特に優秀だった平面作品100点、立体作品100点を集めました。

埼玉県知事賞

小学校低学年の部



せかい一大きいオムライス
日高市立高麗川小学校 第1学年 須江 彩加里

小学校高学年の部



カンフーカマキリ
加須市立豊野小学校 第4学年 長塚 智也

中学校の部



光石魚
深谷市立藤沢中学校 第1学年 山川 百音

埼玉県議会議長賞

小学校低学年の部



ふしぎなぞうすけるん
深谷市立常盤小学校 第2学年 浦野 玲翔

小学校高学年の部



夜景列車の旅へご案内
さいたま市立植水小学校 第6学年 岩成 菜々美

中学校の部



曇り
さいたま市立片柳中学校 第2学年 藤橋 穂乃華

埼玉県教育委員会教育長賞

小学校低学年の部



ホワイトタイガーといっしょにあそんでる
行田市立南小学校 第1学年 吉田 虎音

小学校高学年の部



へんてこ山の動物パラダイス
吉川市立中曽根小学校 第4学年 坪谷 結藍

中学校の部



部活終わりの帰り道
行田市立南河原中学校 第2学年 島村 実里

さいたま市教育委員会教育長賞

小学校低学年の部



虫をはこぶりゅう
蕨市立塚越小学校 第1学年 富田 真

小学校高学年の部



サーファーの夏
さいたま市立本太小学校 第4学年 本田 識帆

中学校の部



もしも、動物になったら
加須市立加須東中学校 第3学年 坂尾 仁胡

造形教育の新天地! ワイワイ 埼玉 Artlearntis

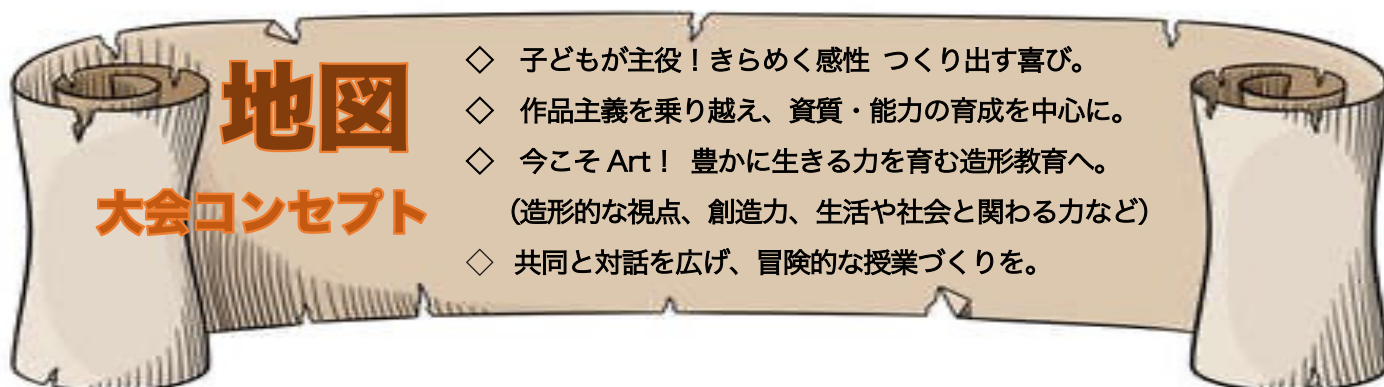
1 新時代への船出 ～ 希望としての Art+learn+t+i+s ～

先行きが不確実で予測の困難な「VUCA」の時代。そんな時代の大海原を目前にして、“Art、”による“learn(学び)”は、これからの時代を豊かに生きる力を育む教育として見直されつつあります。資質・能力の育成、創造力や造形的視点の獲得、生活や社会との関わりなど、新たな造形教育の在り方も模索されています。本大会を契機に、埼玉県は、未来を拓き、子どもたちの希望となるような造形教育の新天地「Artlearntis アートラーンティス」を求めて船出します。

- ・「Art (アート)」は、幼、小、中、高を通じて行われる造形活動のこと
- ・「learn (学び)」は、造形活動により子供が成長したり、何かを獲得したりすること
- ・「t」は、「transformation(変革)」学びの在り方をより豊かな方向に変えていくこと
- ・「i」は、「inclusion (包括)」多様な人々が互いの個性を認め合い協働すること
- ・「s」は、「sustainability(持続可能性)」造形教育の力を将来にわたって生かし続けること

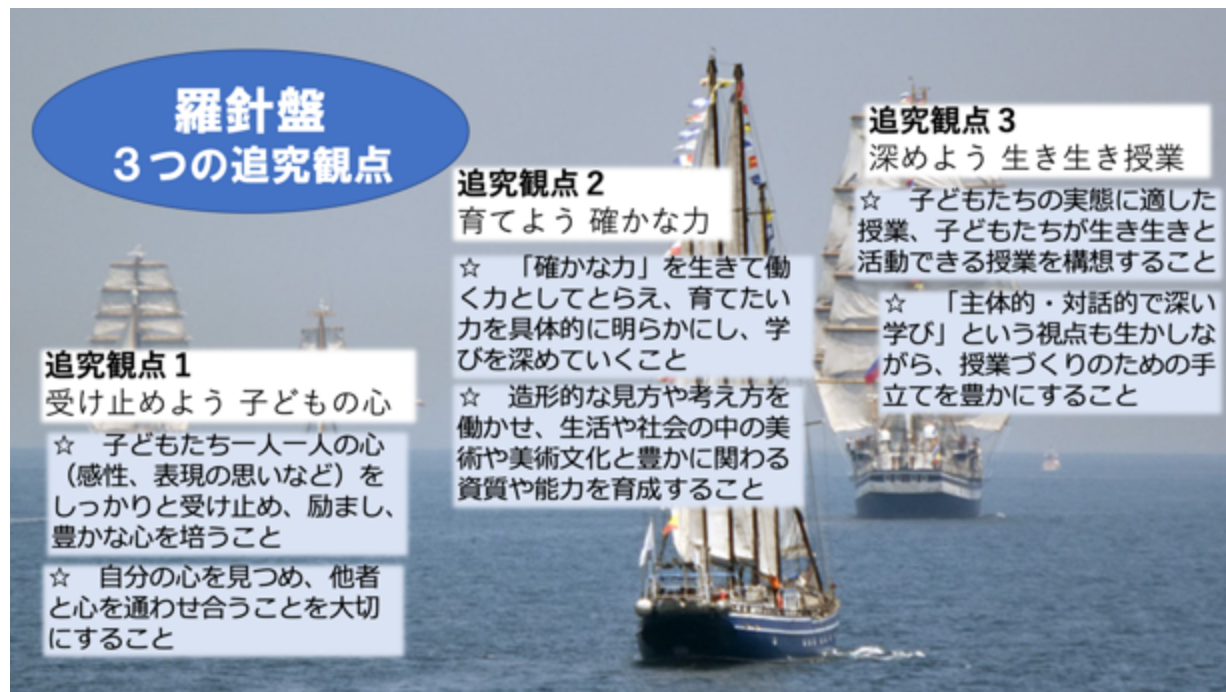
2 私たちの地図 ～大会コンセプト～

私たちには、どのような“Artlearntis”の姿を思い描けるでしょうか。その姿は、まだおぼろげです。それでも、航路の手がかりとなる地図があります。それが、本大会のコンセプトです。夢中になり本気になって活動する子どもたちの姿。きらめく感性、つくり出す喜び。お決まりの手順もあてがいぶちのゴールも突き抜け、思い思いに自らの感性を働かせ、想像の翼をいっぱい広げ、詩や物語を紡いでいく子どもたちの姿。新たな意味や価値を生み出し、互いに響き合い、かけがえのない自分と出会う子どもたちの姿。作品の出来映えのみに目を奪われ競い合うのではなく、豊かな資質や能力を我がものとし、成長していく子どもたちの一人一人の姿にこそ目が向けるべきでしょう。造形活動を通して獲得される、造形的な見方・考え方、創造力、生活や社会と関わる力など、Artに根ざした生きる力は、様々な困難を乗り越え、豊かな人生を歩んでいく力、より人間的で彩りのある社会を築いていく力の要になるはずです。造形教育に秘められた可能性を見出し、どう実現していくか、私たちの主体性、創造性、そして、共同する力が試される時です。



3 羅針盤を携えて ～3つの追究観点～

埼玉県では、毎年、県の造形教育研究大会を開催し、創造体験研修会と授業実践研修会を通して、多くの参加者を集め研修を積み重ねてきました。「3つの追究観点」は、そうした長年の研究の中で明らかにされてきた観点であり、造形教育の原点に立ち返りながら、新たな実践に挑む上での指針となっています。とりわけ「子どもの心」を見つめ、受け止め、励ましていくという観点は、埼玉の造形教育の大切な理念として受け継がれています。ここで掲げた「3つの追究観点」を羅針盤に、時代の変化に挑み、新たな発想を呼び起こしながら、より創造的に造形教育の未来を拓いていきたいと考えます。



4 「にじいろ」の冒険が始まる ～7つの分科会～

本大会では、7つの分科会を設けることとしました。第1分科会は、幼稚園での取組を、第7分科会は、高校での取組を取り上げます。そして、第2分科会から第6分科会までの5つの分科会は、小学校と中学校での取組を取り上げる分科会となっています。

それぞれの分科会は、造形教育のねらいや課題、活動内容の特性を象徴する7つのトピックで構成されています。提案者や 参会者がそれぞれのトピックを手がかりにしながら、より自由な発想で提案したり内容を深めたりできるようにしました。

第1分科会の「Spring」（わくわくぞうけい）には、「跳ねる、生じる、湧き出る」あるいは「春、泉」といった意味 があります。就学前の幼稚園の子どもたちの生まれながらもつ造形への意欲の発露や感性のみずみずしさを象徴しています。第2分科会「Play」（造形遊びを中心に）、第3分科会「Create」（自己表現を中心に）、第4分科会「Life」（豊かな生活づくり）、第5分科「Wonder」（新たな試みや鑑賞）、第6分科会「Link」（様々な連携を図る）は、小中学校を対象にした分科会です。それぞれ、具体的な実践例を3つずつ示し、提案の参考になるようにしました。第7分科会の「flying」（はばたく美術教育）には、「飛翔」という意味があります。「美術に関する専門的な学習に取り組み、感性を磨き、美術文化の継承、発展、創造に寄与する態度を養う。」という高校の美術教育の目標や豊かな生活や人生を築く力を身に付け社会へはばたいていくというこの時期の美術教育の特性を象徴的に示しています。

7つの分科会	① Spring (わくわくぞうけい)	◇ 幼稚園での実践	実践例 ※提案者は、実践例を参考に実践テーマを考える。		
	② Play (造形遊びを中心に)	◇ 「協働的な学び」～「遊び性」を生かして、協働的に学ぶ実践例～ ◇ 「身体的な学び」～体で素材や環境とかわり感性を育む実践例～ ◇ 「実験的な学び」～過程や発見を重視し資質・能力を育む実践例～		埼玉 A1 B1	他県 A1 B1
	③ Create (自己表現を中心に)	◇ 「主題を深める」～主題を深めながら、主体的に表現する実践例～ ◇ 「創造力の発揮」～感性や想像力を働かせて、つくり出す実践例～ ◇ 「個性を生かす」～学びの個別最適化をめざす造形教育の実践例～		埼玉 A1 B1	他県 A1 B1
	④ Life (豊かな生活づくり)	◇ 「生活と関わる」～生活や社会に目を向け、造形と関わる実践例～ ◇ 「学校をつくる」～学校教育での造形教育の役割を考えた実践例～ ◇ 「地域とともに」～地域とつながり、創造する主体となる実践例～		埼玉 A1 B1	他県 A1 B1
	⑤ Wonder (新しい試みや鑑賞)	◇ 「造形的な見方」～造形的な視点を学び豊かな感性を育む実践例～ ◇ 「ことばと造形」～伝え合う活動を通してよさを共有した実践例～ ◇ 「ICTの活用」～情報通信技術などを効果的に活用した実践例～		埼玉 A1 B1	他県 A1 B1
	⑥ Link (様々な連携を図る)	◇ 「カリキュラム」～カリキュラム・マネジメントに関わる実践例～ ◇ 「校種間の連携」～校種間のつながりやかかわりを生かす実践例～ ◇ 「協同を広げて」～美術館や専門家などとの連携を広げる実践例～		埼玉 A1 B1	他県 小1 中1
	⑦ Flying (はばたく美術教育)	◇ 高等学校での実践	※②～⑥の分科会をそれぞれA、Bの2つに分ける。 分科会の数…①+⑦+ (②～⑥) × 2 = 12		

6 造形教育の新天地へ

造形教育の冒険に終わりはありません。私たちは、従来の造形教育を乗り越え、新たな造形教育を創造するためにも、また、時代の担い手を育てるためにも、様々な人々がつながり合い、互いの問題意識をぶつけ合い、抱えている課題を共有して、知恵と情熱を響かせ合うような大会をめざしたいと考えます。埼玉には海はないけれど、新天地へのあこがれを胸に、みんなで荒波にもまれながら、「ワイワイ、進んでいきましょう。諸人集え、埼玉へ！

造形教育の新天地！
ワイワイ 埼玉 *Artlearntis*





令和5年度
第51回関東甲信越静地区
造形教育研究大会埼玉大会
大会テーマ

7つの分科会

① Spring (わくわくぞうけい)	◇ 幼稚園での実践 埼玉の目玉となる 具体的な提案と議論のテーマ	埼玉県	他都県
② Play (造形遊びを中心に)	造形遊びの落とし穴を考える。作品主義に陥らないために。 ※作品にづくりをゴールとしない、造形遊びを通した学びとは？呪縛から抜けて、その意義を問い直す。	GARAボン (西部地区等) 北埼玉チーム	静岡 千葉
③ Create (自己表現を中心に)	やらせられ感満載の授業を、自分ごとになる授業に。 ※あてがいぶちの課題を上手くこなす授業ではなく、自分の主題を深め、自分の表現を主体的に探求する授業へ。	図美好場(上尾等) ArtBase(埼玉葛等) ARTSWAN(新座等)	群馬 東京
④ Life (豊かな生活づくり)	街に出る造形活動。子どもと大人の学び合い。 ※造形活動を通して、地域と関わり、地域の人々とつながりながら、生活や社会に開かれた造形的な学びを探求する。	のすっぴアート ひなちゃんず (鴻巣など)	茨城 新潟
⑤ Wonder (新しい試みや鑑賞)	図工美術の知識とは何か。造形実験の試み。 ※造形的な視点、共通事項といった図工美術ならではの、見方・考え方を発見的に学び取っていく新たな授業。	Art×ICT戸田 (戸田など) 造形実験チーム (さいたま市等)	栃木 山梨
⑥ Link (様々な連携を図る)	朝鑑賞。カリキュラム・マネジメントとしての鑑賞活動 ※他教科との連携、自分の思いや考えを自由に表現し合える力、図工美術が担うべき役割などを考える。	朝鑑賞の 実践校	神奈川 長野
⑦ Flying (はばたく美術教育)	◇ 高等学校での実践	※ 分科会の担当は、地域の枠は設けず、全県的な視野に立って人選し、チームをつくって研究を進めていく。	

埼玉県教育委員会教育長様
さいたま市教育委員会教育長様
各教育事務所長様
各市町村教育長様
埼玉県立高等学校長様
各市町村小・中・高・特別支援学校長様
埼玉県国公立幼稚園長様

令和4年10月吉日

埼玉県造形教育連合
理事長 勝山 寛美

第62回関東甲信越静地区造形教育大会 埼玉大会 第63回埼玉県造形教育研究大会 **経過報告会**

大会テーマ

造形教育の新天地!

ワイワイ埼玉 Artlearntis



令和4年11月16日(水) 13:00~16:30

会場 オンライン開催 (ZOOM)

参加費 無料

主催 埼玉県造形教育連合

集会許可 埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

教義指第745号令和4年10月20日

教学指1第5167号令和4年10月25日

参加の流れ

※服務については、所属長にご相談ください。

- 1 下のQRコードを読み込む。
- 2 「申し込みフォーム」に氏名・所属・メールアドレス等を入力する。
- 3 入力終了したら「送信」を押す。
- 4 登録したメールアドレスにZOOMのIDとパスコードが送られてくる。
- 5 当日はそのIDとパスコードを使って参加する。

ZOOM ミーティングに参加する方法

- ①初めてご使用になる場合はZOOMの公式サイトよりご自分のパソコン等にアプリをインストールしてください。（インストールせずにwebからも入れます。）
- ②「ミーティングに参加」をクリックし、IDと名前を入力する。
- ③「オーディオに接続しない」「自分のビデオをオフにする」はチェックしない。
- ④「参加」をクリックし、パスコードを入力する。
- ⑤「ミーティングに参加」をクリックする。

- 6 閉会行事において、チャット欄にアンケートURLが貼り付けられる。そのURLをクリックし、「アンケートフォーム」に入力して、「送信」を押す。

第62回関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会
第63回埼玉県造形教育研究大会 **経過報告会**

申し込みはこちらから
(GoogleForms)



申し込み締め切り 11月9日(水)

《お問い合わせ先》

埼玉大学教育学部附属中学校

埼玉県造形教育連合事務局 吉田 真梨

myoshida68@mail.saitama-u.ac.jp

大会テーマ

造形教育の新天地！ワイワイ埼玉 Artlearntis

趣旨

先行きが不確実で予測の困難な「VUCA」の時代。そんな時代の大海原に漕ぎ出していく子どもたちにとって、「Art」による「learn(学び)」は、豊かに生きる力を育む教育として見直されつつあります。作品主義への反省、資質・能力の育成、創造力や造形的視点の獲得、生活や社会との関わりなど、新たな造形教育の在り方も模索されています。

埼玉の造形教育は、これまでも「子どもの心」「確かな力」「生き生き授業」(3つの追究観点)を羅針盤にして、チャレンジ続けてきました。造形教育の冒険に終わりはありません。本大会を契機に、未来をひらき、子どもたちの希望となるような造形教育の新天地(Artlearntis アートラーンティス、Art learn transformation inclusion sustainability)を求めて船出します。

私たちは、従来の造形教育を乗り越え、新たな造形教育を創造するためにも、また、時代の担い手を育てるためにも、様々な人々がつながり合い、互いの問題意識をぶつけ合い、抱えている課題を共有して、知恵と情熱を響かせ合うような大会をめざしたいと思います。埼玉には海はないけれど、みんなで荒波にもまれながら、「ワイワイ」進んでいきましょう。諸人集え、埼玉へ！



7つの分科会

① Spring

(わくわくぞうけい)

② Play

(造形遊びを中心に)

③ Create

(自己表現を中心に)

④ Life

(豊かな生活づくり)

⑤ Wonder

(新しい試みや鑑賞)

⑥ Link

(様々な連携を図る)

⑦ Flying

(はばたく美術教育)

◇ 幼稚園での実践

埼玉の目玉となる

具体的な提案と議論のテーマ

造形遊びの落とし穴を考える。作品主義に陥らないために。
※作品にづくりをゴールとしない、造形遊びを通した学びとは？呪縛から抜けて、その意義を問い直す。

やらせられ感満載の授業を、自分ごとになる授業に。
※あてがいぶちの課題を上手くこなす授業ではなく、自分の主題を深め、自分の表現を主体的に探求する授業へ。

街に出る造形活動。子どもと大人の学び合い。
※造形活動を通して、地域と関わり、地域の人々をつながりながら、生活や社会に開かれた造形的な学びを探求する。

図工美術の知識とは何か。造形実験の試み。
※造形的な視点、共通事項といった図工美術ならではの、見方・考え方を発見的に学び取っていく新たな授業。

朝鑑賞。カリキュラム・マネジメントとしての鑑賞活動
※他教科との連携、自分の思いや考えを自由に表現し合える力、図工美術が担うべき役割などを考える。

◇ 高等学校での実践

日程・内容・指導助言等

令和4年11月16日（水）オンライン開催（ZOOM）

受付 12:45～13:00

1 開会行事 13:00～13:10 （連合理事長挨拶、来賓指導者紹介、経過報告会説明）

2 経過報告 I 13:10～15:10 （分科会研究チームの経過報告）

A ブ ロ ック	分科会 テーマ	時程と 発信場所	報告の概要	チーム名	報告者
	②Play 造形遊びを 中心に	13:10-13:20 所沢市立 和田小学校	子供の活動を子供自身や大人はどう見ているのか、活動の過程を覗いてみるにはどうしたらよいか。これまでの取組を報告します。	GALA ポン	狭山・新狭山小 井手尾晋一 所沢・椿峰小 高野 敏 所沢・牛沼小 松村陽子 狭山・入間川小 児島綾子 入間・東金子小 及川美沙子 所沢・和田小 原田諒子
	②Play 造形教育の 課題を 考える	13:20-13:30 羽生市立 東中学校	アンケートを基に、図工・美術の授業における先生方の悩みを明らかにし、その解消のための地区の取組について報告します。	北埼チーム	羽生・三田ヶ谷小 五十嵐はる菜 加須・西中 木塚 暦 行田・西中 甘楽絃子
	③Create 自己表現を 中心に	13:30-13:40 春日部市立 上沖小学校	MTGを活用した話し合いや、実技研修等を通して「自分事になる授業とは」をテーマにしたこれまでの取り組みを報告します。	Art Base	白岡・白岡中 石川清子 松伏・松伏小 芦田晟也 蓮田・蓮田南小 児玉 透 松伏・松菱中 石田 唯 越谷・千間台小 川上亮太 春日部・上沖小 平栗彰子
	指導講評	13:40-13:50	武蔵野大学教育学部教育学科特任准教授 大杉 健 先生		

B ブ ロ ック	分科会 テーマ	時程と 発信場所	報告の概要	チーム名	報告者
	⑤Wonder 新しい試み や鑑賞	13:50-14:00 各所属校	ICTを活用した子供たちがワクワクする新たな挑戦の実践アイデアを報告します。	Art×ICT TODA (アーティクトダ)	戸田・戸田東小 上廻哲也 戸田・新曾小 滝沢和子 戸田・笹目小 高比良紀代美 戸田・新曾北小 牛込宣隆 戸田・新曾中 高田悠希子 戸田・戸田第一小 石塚怜美 県立近代美術館 平井良子
	⑤Wonder 新しい試み や鑑賞	14:00-14:10 各所属校	造形実験を通じて育む教師と生徒の関わり方の変容を報告します。	さいたま市 チーム	さいたま・東浦和中 石神憲二郎 埼玉大学・附属中 小西悟士 さいたま・白幡中 砂川夏菜 さいたま・大砂土小 石井ゆかり
	⑥Link 様々な連携 を図る	14:10-14:20 所属校	学校のカリキュラム・マネジメントに係る美術の教科を超えた取組を紹介しします。	朝鑑賞チーム	所沢・小手指中 佐藤彩弥
	指導講評	14:20-14:30	武蔵野美術大学教授 三澤 一実 先生		

C ブ ロ ック	分科会 テーマ	時程と 発信場所	報告の概要	チーム名	報告者
	③Create 自己表現を 中心に	14:30-14:40 上尾市立 大石中学校	実践を共有し、対話する中で 見えてきた「発想や構想につ いての課題」と、その解決の 見通しについて報告します。	図美好場	上尾・大石中 大島伸夫 上尾・富士見小 尾見拓哉 上尾・富士見小 横山沙織 上尾・東中 鮑津亮太 上尾・大石南中 吉田詩織
	③Create 自己表現を 中心に	14:40-14:50 新座市立 新座第二中学校	工芸やデザインの授業におい て生徒が主体的に取り組むた めの評価と工夫の情報共有を します。	ART SWAN	新座・第二中 高島麻耶 和光・第二中 大森晴海 朝霞・朝霞第五中 飯田成子 さいたま・白幡中 砂川夏菜
	④Life 豊かな生活 づくり	14:50-15:00 鴻巣市立 吹上北中学校	地域とのつながりを考えた造 形活動について考えたこと、 実践したこと等を報告しま す。	のすっ子アート ひなちゃんず	鴻巣・松原小 石塚哲也 鴻巣・吹上小 馬場有香 鴻巣・箕田小 大平亜里沙 鴻巣・小谷小 庄田 薫 桶川・桶川小 本木理恵子 鴻巣・鴻巣西中 青木幸子 鴻巣・吹上北中 岡村安佑美 鴻巣・赤見台第一小 石塚香代
	指導講評	15:00-15:10	埼玉大学教育学部芸術学講座教授 石上 城行 先生		

3 経過報告Ⅱ 15:10～16:30

幼 稚 園	分科会 テーマ	時程	報告の概要	会場	報告者
	①Spring わくわくぞ うけい	15:10-15:20	・舟戸幼稚園の紹介 ・造形教育指導の特色と課題	舟戸幼稚園	オブライアン菜穂子
	指導講評	15:20-15:30	こども環境デザイン研究所代表 矢生 秀仁 様		

	分科会 テーマ	時程	報告の概要	会場	報告者
小 学 校	後日決定	15:30-15:40	・元郷南小学校の紹介 ・図画工作指導の特色と課題	元郷南小学校	研修主任又は授業者
中 学 校	後日決定	15:40-15:50	・南中学校の紹介 ・美術指導の特色と課題	南中学校	研修主任又は授業者
	指導講評	15:50-16:00	埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 采澤 敬 様		

高 等 学 校	分科会 テーマ	時程	報告の概要	会場	報告者
	⑦Flying はばたく美 術教育	16:00-16:10	・川口市立高校の紹介 ・美術指導の特色と課題	川口市立高校	吉川和典
	指導講評	16:10-16:20	さいたま市教育委員会指導1課指導主事 山岸 啓介 様		

4 閉会行事 16:20～16:30 (謝辞、諸連絡)

分科会テーマ ②Play 造形遊びを中心に

GALA ポンチーム (西部入間地区)

代表者：原田 諒子 (所沢・和田小)
 原稿作成者：井手尾 晋一 (狭山・新狭山小)
 原田 諒子 (所沢・和田小)
 高野 敏 (所沢・椿峰小)
 松村 陽子 (所沢・牛沼小)

1 チームの説明

共に集おう!!
 Artによる学びの
 冒険に出かけよう!!



西部入間地区を中心としたメンバーでスタートしました。造形遊びを中心に研究を進めているチームです。発足当時、チームで大事にしようと考えていたことは、以下の5つです。

- ① 子どもの思考の変容を追っていこう!
- ② 試す中から発見していこう!
- ③ やったことを振り返る方法を探そう!
- ④ どうなるかわからない!? わくわく感! を大切にしていこう!
- ⑤ どんどん変われる。どんどん壊せる。どんどん関わられる活動をしていこう!

2 これまでの取組等

- ☆チームの結成
- ☆チームロゴの決定
- ☆クラスルームの作成&活用
- ☆オンライン&ハイブリットでの MTG



オンラインミーティングの様子↑

中間報告会の様子



メンバーの実践① (4年生)

のこぎりと金づちと木を使って何ができるかを追求した実践です。(スクールタクト使用) 児童の活動ポートフォリオ↓



1枚の板を、どんなふうに変えていけるか。一人一人がそれぞれ、自分の思い思いのやり方で変えていく! 1枚の板が、どんなふうに変ったかを自分で確認していくのです。



板を洗って思ったこと
 板を洗っていったとき、これももともと「一つの命だったんだ」と思いました。それをきるのはせつないな、とおもいながら、洗いました。



切って見て思ったこと。
 なんにもない。板から先っぽをきりとってみましたが、こう見ると、奥の奥にいますね。

切った板の形から、見立てることで、ただの板に命が吹き込まれるように思います。

切り取る
 →見る
 →見立てる
 →手を加える
 →さらに加工する
 この繰り返しが図工の時間だと考えます。



切ったり、組み合わせたり、見立てたり、ちょっと離してみてもまた組み合わせたり。こういう様子から、発想構想能力を働かせていることが伺えます。



作って見た。
 いずみみたくになりました。もう、かんげに集じやいですね。ちょびり割れちゃいました。



作って見た。
 最終的に剣をつくることにしました! その名も「歴史剣」です。ちょと色がグロイですが、かっこいい、割にできたかともいいます。

周りに、剣を作っていた子が多かったので、御多分にもれず、この児童も、剣づくりに向かいました。彩色も、独特の色使いで、大変彼女らしい作品になりました。しかも、お気に入りの作品になったようです。

メンバーの実践②（6年生）

米袋を使って何が出来るかを追求した実践です。

（スクールタクトを使用）

児童の活動ポートフォリオ↓

★WADAコレ2022①



この黒出しは、みんなと違うように作りたいと思って作って見ました。ですが、黒い部分にちよっとしたアクセントをつけたいと思って、細く切った袋をボンドで付けたりびったりフィットしました。

これは、私が「真中に目印になるものがほしいな」と思って、一枚一枚星の形を切ったので、途中で「真ん中を切りたいな」と思ったので星の形を切ってみました。そうしたら、一つだけ足りないそうなので、次はもうちょっと同じようなものを制作して、きれいに切ろうと思いました。

★WADAコレ2022③



真ん中に、星のテープで星の形を作りました。真ん中に貼ったので、結構よく目立ちます。

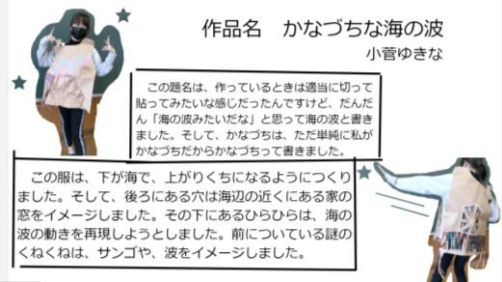
この写真からだと思えますが、こちらへんにシールを貼ってちょっとだけ見栄えを良くしました。

下のタコみたいなフリフリのやつは、動きをもうちょっと足したくて作りました。破って作ると、色んな形のものができるので面白かったです。

外側にある白のやつは、テープに付いていたゴミなんですけど、せつかくだから周りにつけてはつきり見せるようにしました。

次は、色をたそつと思えます。

★WADAコレ2022⑤



作品名 かなづちな海の波
小菅ゆきな

この題名は、作っているときは適当に切っただけで貼ってみたい感じだったんですけど、だんだん「海の波みたいだな」と思って海の波と書きました。そして、かなづちなは、ただ単純に私がかなづちなだからかなづちって書きました。

この服は、下が海で、上がりくちになるように作りました。そして、後ろにある穴は海辺の近くにある家の窓をイメージしました。その下にあるひらひらは、海の波の動きを再現しようと思いました。前についている謎のくねくねは、サンゴや、波をイメージしました。

3 今後の計画等

- ・ 1年生 箱を素材として、造形遊びを企画中
 - ・ 1年生 紙コップを使った造形遊びを企画中
- どの実践でも子ども自身が自分の活動を振り返る方法を模索していくことを共通の課題にしていきたいと考えています。これまでは、低学年は、「活動の過程を写真に撮ること」中・高学年は、「スクールタクト」の活用を実践してきました。

今後も他のメンバーと実践を共有し、新たな視点を見つけていく予定です。

4 関プロ埼玉大会に向けて

GALA ポンチーム新しいキーワード

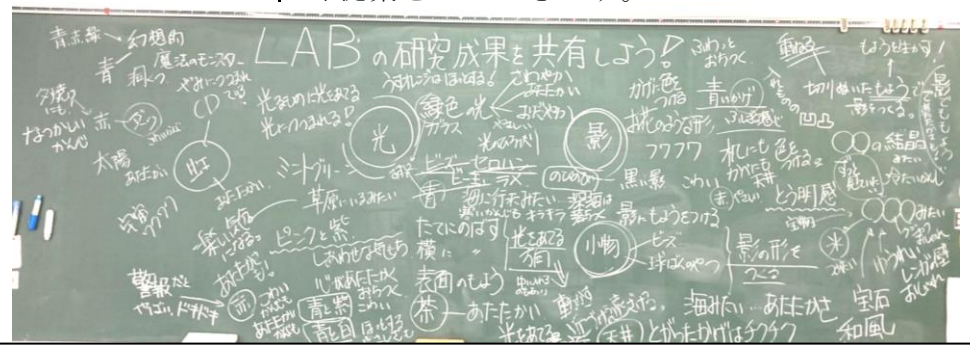
～造形遊びを味わい尽くす～

造形遊びをしてもやりっぱなしになっていたりと、そもそも造形遊び自体を行っていなかったりする話をよく聞きます。

しかし、造形遊びの中にこそ生涯に渡って必要になる力があると考えます。その力を活かせるようにするには、自分の発見や経験を学びとして蓄積させていくことが必要でしょう。例えば、子どもの活動をそのままにせず、対話することで学びを共有したり、広げ深めたりすることが期待できると考えます。

また、低学年は「楽しむ」ことを中心に、中学年は「発見」を中心に、高学年は、既習の経験を全て関連付けて集大成となるように、造形遊びを発達の段階に応じて考えていきます。中学校は小学校の経験を自分の表現に活かしていきます。

造形遊びを学びとして自分の中に積み上げていく提案をしていきます。



造形遊びの活動から自分が感じたことを発見したことを、PCを使って発表している様子。黒板は、児童の言葉を書き出し、見える化した。

分科会テーマ ②Play 造形教育の課題を考える

北埼チーム

代表者：五十嵐 はる菜（羽生・三田ヶ谷小）
 木塚 暦（加須・加須西中）
 甘楽 紘子（行田・西中）
 原稿作成者：甘楽 紘子（行田・西中）

1 チームの説明

『北埼チーム』は、行田市・加須市・羽生市の図工・美術主任会の部長や副部長等が集まった『北埼玉美術教育研究会』という半分公式の団体の代表である。

2 これまでの取組等

北埼玉地区では約 1/3 の中学校美術科が非常勤講師となり本務者の美術教員が減少している。また、小学校の図工主任の入れ替わりが激しく、図工主任を初めて経験する機会が多いことから、年々小学校の先生方の図工の授業への不安感が強くなっているように感じていた。

そこで、地区の現状を把握し地区全体の図工・美術の活動の底上げの方法を考えた。

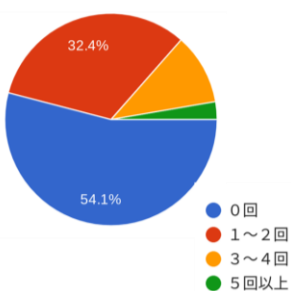
●アンケートの実施と結果（一部）

地区内 65 校の小中学校の図工・美術主任にアンケートを実施し、現状を把握した。

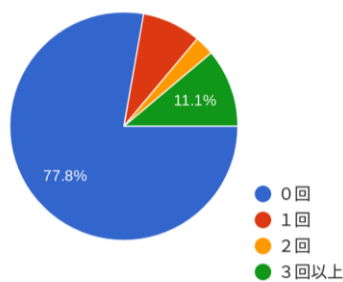
アンケートでは研究授業の経験、相談相手の有無、実技指導・鑑賞活動・評価などで困っていることについて細かく聞いた。

小学校でのアンケート結果の一部を紹介する。結果から、現場では図工の教育活動に対して多くの困難を抱えている現状が分かった。

図工の研究授業を何回参観したことがありますか

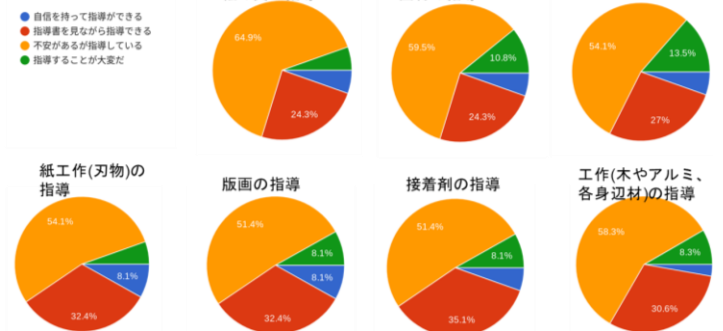


図工で自分の研究授業をしたことがありますか



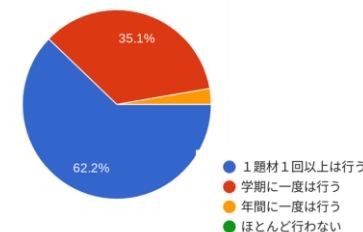
実技指導で不安なこと

● 自信を持って指導ができる
 ● 指導書を見ながら指導できる
 ● 不安があるが指導している
 ● 指導することが大変だ

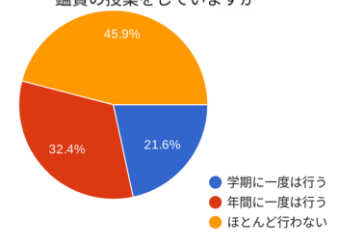


鑑賞について

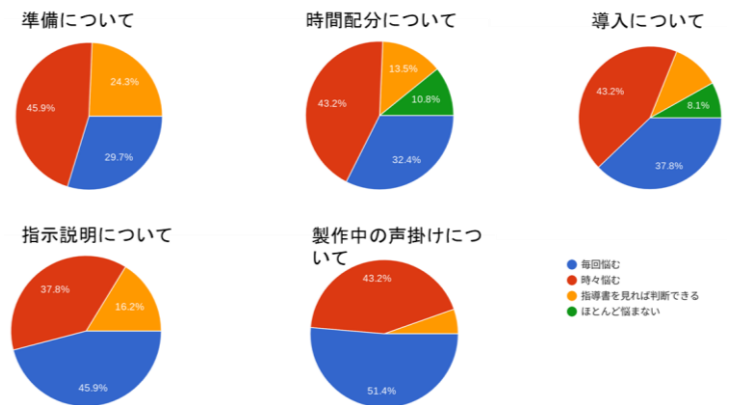
こどもの作品を鑑賞する授業をしていますか



美術作品や美術文化に関する鑑賞の授業をしていますか



図工の授業の進め方で悩んでいる内容



3 今後の計画等

- ① 授業研究会の設定
- ② 実技研修会の設定
- ③ 北埼図工・美術ハンドブックの作成・配布
- ④ ホームページの作成

特に授業研究会や実技研修会は毎年行うことで、図工・美術について研修する場を提供したい。

4 関プロ埼玉大会に向けて

まずは一つ一つの取組を確実に行っていき、地区の先生方の図工・美術に対する関わりを増やし、よりよい教育活動の素地を作りつつ、図工美術に積極的に関わられる教員を増やしたい。

分科会テーマ ③Create 自己表現を中心に

Art base

代表者：平栗 彰子（春日部・上沖小）
原稿作成者：川上 京太（越谷・千間台小）

1 チームの説明

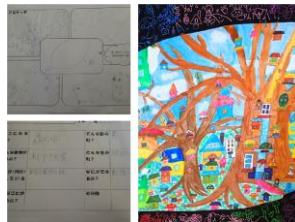
「Art base」は、埼玉地区区工・美術教育研究会を母体とするチームである。幼・小・中の若手からベテランの教員が、それぞれの立場からの意見を出し合い、よりよいものにしていこうと考えている。



「Art base」とは、秘密基地のようなわくわくする空間を作ろうと名づけられた。様々なアイデアを持ち寄り、悩みを共有して子どもが「自分ごとになる授業」を目指して研究を進めている。子どもたちがキラキラ輝く授業とはどのような授業か、オンラインミーティングや実技研修会を通して、親睦を深めながらわいわい話している。

2 これまでの取組等

提案① 小学校平面作品題材の実践発表を行った。想像を広げて構想するためのワークシートを用意した。どこにある町か等、自分の表現したい町について具体的に考えられるようにした。筆が進まない児童には ICT を活用してよいことを伝えた。ワークシートを用いることで具体的に想像が広がったが、「誰が住んでいる」等の項目ではかえって苦しむ児童も見られた。



協議では既習の技法を繰り返し用いることで表現の幅が広がること等、技法について話し合った。つけたい力を明確にし、授業の流れを予め組み立てる。子供たちが自分ごととして考えられるよう、選択・自己決定を増やすこと。つけたい力を明確にするには、ある程度表現方法を絞る必要があること。同じような表現方法ばかりを選択しないよう注意が必要であること等が話し合われた。

提案② 小学校平面作品の実践発表である。構図に立体感や奥行きを出すため、ICTや写真を活用した。また思考ツールを用いて構想を広げた。

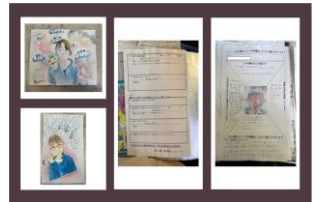


実際の風景を観察しておらず遠近感の表現に課題があった。またどこまで写実的に描くのか、想像的に描くのかの指導に迷いを感じた。ICTを活用することでイメージを具体化する助けになった。

協議では、構図について屋外に出て体験的に感じさせた上で、気付きを引き出すという意見が出た。五感で感じられない部分を動画で見せる等して補う。またどう表現したいか子どもたちに任せるという考えも出た。ICTについては自分の力でイメージするのが大切であり、オリジナリティーの指導もしっかりと行うという考えを共有した。

美連の山田研究局長からの指導では①ICTの活用について、研修会でアイデアを持ち寄る等の宿題を出して共有を図ること。②技法は教え込まず、優れた作品を見て自ら学ぶように仕向けることで自分ごとになる。精神的な解放感を制限せず、写実的か想像的か、どのように主題を表すかをその子に選ばせるとよいこと等の指導を頂いた。

提案③ 中学校の実践発表があった。1年生では色の学習をしたいが時間が足りず、効果的な学習方法を模索している。2年生では鑑賞について更に多面的に捉えさせていきたい。



3年生の自画像では自分の顔を描くことに抵抗感があり、自分と向き合う学習方法を考えている。

身近な物と結び付けることで想起しやすくなるため、美術の授業を実生活につなげることが重要だということ等について協議した。また中学入学の段階で子供は上手に描かなくてはと身構えるので、技術だけでなく楽しむ視点が大切である。色相・明度・彩度の学習に ICT を活用して学習を深める、等のアイデアを共有した。

山田研究局長からの指導・講評では①体験やICT活用等、使えるものが増えているのでこれからも積極的に用いる。②生活経験や行事、他教科と結びつけることが重要であり、美術で学んだことを生活に結び付けられたらなおよい。③技術指導と合わせて感じる心を育てる。以上の3つについてお話を頂いた。

提案④ 夏季休業期間に実際に集合し、実技研修会を行った。

多様な粘土についての活用方法等を学んだ。コマ送りアニメーションづくりをしたり、キットを用いて制作したりした。それぞれの悩みや近況をわいわい話しながら作品づくりを楽しむことができた。参加者からは内容や時間を検討し、再び実践研修会を開催してほしいとの要望があった。



提案⑤ 幼稚園の実践。年少ではワークシート用いてクレヨンの練習に取り組む。野菜

を切る、線路を描く等楽しめるよう工夫する。クレヨンを食べない等の約束事を最初に確認する。年中では野菜スタンプで花の模様をつくる。年少と比較して手先の間隔が優れてくる。年長ではマーブリング模様を付けた紙に絵や字をかき加えている。廃材遊びにも取り組む。材料は常にストックし、選んだ材料で思い思いのものを制作する。

子どもの満足感を引き出す取組や、行為そのものを楽しむ活動の様子が見られること等が話し合われた。ICTについては、幼稚園段階での活用方法を協議した。幼稚園のうちに様々な経験をさせる必要がある。画材もクレヨンだけでなく絵の具等にも触れることで、経験値として蓄積される。「やってみよう」という姿勢を持つことで創造性が広がり、表現活動を楽しむ子どもの育成を図ることができるといったことについて共有した。



3 まとめ・キーワード

①経験 自然に触れる等様々な生活経験が想像性や感じる心を育む。経験から気づき、学び、表現すれば、「自分ごとになる授業」につながる。

②教え込みでない学び 指導者ではなく子どもが満足する授業をつくる。優れた作品を見て自ら学ぶ、選択肢を示す等、学びの機会を設定する。

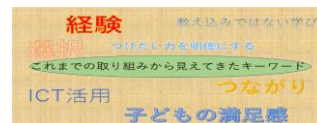
③選択 選択肢を示し自己決定の場をつくることで「自分ごとになる」学びにつながる。素材や材料の選択、画材や道具・技法についての選択等。

④つきたい力を明確に 指導者側がつきたい力を明確にして授業を組む。子どもに力がついているか。作品の完成度にとらわれないようにする。

⑤つながり 他教科とのつながり、幼・小・中の経験とのつながり、友達とのつながりが学びにつながり、更に生活へとつなげられたら素晴らしい。

⑥ICTの活用 次代を生きる子どもたちの学びのアイテムとして必須のものとなることから、ICTを大いに活用し学びにつなげる方法を探っていく。

⑦子どもの満足感を引き出す授業 「自分ごとになる」授業とは、まさに「できた!」「見つけた!」の言葉が最後に子どもから聞ける授業である。



4 今後の取組・関プロ埼玉大会に向けて

今後の取組としてICTを活用した「自分ごとになる」学習を実践する。1つの指導案をもとに3つの学級で授業を行う。授業実践から出た課題を次の授業で解決し、よりよい授業となるよう研修を深める。またオンラインでの協議を継続し、参加者の心の拠り所やアイデアの持ち寄り場となるようにする。持続可能な研修会にしていく。前述したキーワードについて話し合いを深め、授業実践に役立てる。さらに、実技研修会を多様な形態で行い、参加者の輪を深めることで新しいアイデアを生み出す。ネットワーク共有フォルダにアイデアを持ち寄り、実践を振り返ることができるようにする。幼稚園、小学校、中学校という幅広い人材が集まった研究チームの特色を生かした取り組みができるように研究を進めていきたい。

Art×ICT TODA

代表者：上廻 哲也（戸田・戸田東小）
滝沢 和子（戸田・新曽小）
高比良紀代美（戸田・笹目小）
牛込 宣隆（戸田・新曽北小）
高田悠希子（戸田・新曽中）
石塚 怜美（戸田・第一小）
平井 良子（県立近代美術館）
山根 淳一（戸田・第二小）
原稿作成者：山田 一文（戸田・美女木小）

1 チームの説明

図画工作と美術の学習で ICT を活用しようとするチームです。メンバーは戸田市にゆかりのある教員で構成されています。チームの情報共有や実践交流は、主にオンラインで行ってきました。

実践はまだまだ試行が多いものの、交流を通して明らかになってきたことは、図画工作と美術における ICT の活用は、ICT そのものが作品になるものや、映像表現としてのプログラミング、プロジェクションマッピング等だけでなく、児童生徒の思考を深めるツールになったり、作品作りの過程や成果を蓄積するポートフォリオになったり、鑑賞活動を活性化させる媒体となったり、活用の可能性がまだまだあるということでした。今後も実践と交流を行い、よりよい活用法を探すとともに、研究成果を整理していきます。

2 これまでの実践等

経過報告会で報告した、主なチームのメンバーの実践を紹介します。

(1) アートカラーリングブックを使った授業 「色によってどう感じる？」(4年生)



- ・アートカラーリングブックは、幾つかの名画の色塗りができる色彩シミュレーションアプリのことです。
 - ・1時間目は、時間をかけ色ぬりを楽しめます。
 - ・2時間目は、次のプロセスで鑑賞を行います。
 - ①色塗りをする。自分なりの題名をつけ、こだわりポイント書き、ロイロノートで共有する。
 - ②3～4人のグループで交流する。なぜその色にしたのか、お互いの塗った色からどう感じるかなどについて対話をする。(対話的な学び)
 - ③クラス全体で交流し、対話の輪を広める。
- *授業後、配色や色の選び方を生かした授業を計画し、色彩シミュレーションで獲得した色彩に関する体験を今後の学習に生かすことができるようにします。(版画、版画の台紙の色選びなど)

高比良紀代美（戸田・笹目小）

(2) 作品票とQRコードの展示から



Google スライドを使用して、題材ごとに作品をポートフォリオにまとめています。そこには、作品の写真だけでなく、動画、イラスト、タイムラプス等が児童によって収められています。QRコードを一緒に展示することで、鑑賞者は、児童のポートフォリオを閲覧することと、作品の感想も書きこむことができるようになっていきます。さらに、QRコードを使ってネットワークでつながることで、いつでも児童間でアクセスできるようになっています。また、時間制限がないことで自分のライフワークに合わせて鑑賞できることから、以前に比べ多くの児童同士がつながり、活発な意見交流が見られるようになりました。

上廻 哲也（戸田・戸田東小）

(3) ためる・つなげる「eポートフォリオ」

戸田市立新曾北小学校の実践報告「eポートフォリオ」は、ICTを活用し気付きを活動に生かすことを目的としています。2年生は、前の題材で気付いたことを次に生かそうと試すようになり、4年生は、記録を意識することで展示について考えるようになりました。これらの事から記録を生かすことは、児童が自ら考え、試し、変容することにつながるということがわかりました。「記録したものをどのように活用していくか」を今後さらに研究していく予定です。



牛込 宣隆 (戸田・新曾北小)

(4) ロイロノートの活用

授業でロイロノートを活用して感想発表の交流を行いました。生徒・教員の双方に活用のメリットが見込めるものの、ICTはあくまで学習や授業をしやすくするものと考えます。授業を通してどのような力を身に付けさせたいかを考え、これまで通り、年間指導計画を見直したり、日々の授業研究を行ったりすることが大切だと感じました。



①生徒にとっての ICT 活用のメリット

- ・前の授業の説明、先の授業の説明等をいつでも見ることができる。
- ・自分のタイミングで資料を何度も参照することができる。(先生を呼ばない。待たない)
- ・制作のシミュレーションができる。(何度でもやり直せる)
- ・周囲の生徒の取組が見やすい。(共有することで比較等が簡単にできる)
- ・画像付きで振り返ることができる。(記録がそのままポートフォリオになる)

②教員にとっての ICT 活用のメリット

- ・自分でどんどん進められる生徒に、対応しやすくなった。(先の授業内容を生徒が参照できるため)
- ・休んだ生徒がいても、前の記録がすぐ見ることができるので、追いつきやすい。
- ・授業研究や授業準備に対する心のハードルが下がった。
- ・教員の予習、復習、余裕、計画性が向上した。
- ・個別指導により時間をかけることができるようになった。

③現時点での結論

- ・改めて、美術の楽しさ、不思議さ、魅力に気付かせたい。そのための全体の題材計画の工夫を行う。
- ・通信教育、テレビ授業との違いを常に意識し、ICTは学習をしやすくするものとして、深い学びを目指す。

高田悠希子 (戸田・新曾中)

3 今後の計画等

- ・各校の実態に応じた実践を継続する。
- ・実践交流と研究協議を重ね、ICT活用に関する研究成果を整理する。
- ・ICT活用に関する実技研修会の実施。

4 関プロ埼玉大会に向けて

- ・図画工作・美術におけるICT活用の具体的な実践と成果と課題を示し、これからのICT活用についてワイワイ議論ができるように綿密な準備を行っていきたいと思います。

分科会テーマ ⑤Wonder 新しい試みや鑑賞

さいたま市「synapse」

代表者：石神憲二郎（東浦和・東浦和中）
原稿作成者：石神憲二郎（東浦和・東浦和中）

1 チームの説明

さいたま市の教員5名で構成されています。シナプスとは細胞生物学において、神経細胞間あるいは筋繊維間に形成される情報伝達に関わる接合部位とその構造です。脳内にあるニューロンと呼ばれる神経細胞がシナプスを介して繋がり電子回路のようなネットワークを形成しますが、電子回路と大きく異なる点は、様々な経験や学習を通してシナプスが形成され、記憶や学習能力に大きな影響を与えることです。

造形実験が生徒と教師の新たなシナプスを生み出す経験や学習になるよう願いを込めたチーム名です。

2 これまでの取組等

現在、中学1年生を対象に「緊張感」をテーマとした造形実験を実施しています。

表現及び鑑賞の基礎となる知識を効果的に学び、実感を通して学ぶことができる授業を目指しています。教師がテーマを与え、そのテーマに対しそれぞれの生徒が仮説を立て、様々な材料や表し方を駆使し、「自分としての答え」を探索する授業を行なっています。作品を制作するために考えるのではなく、イメージを考えるために描いたりつくったりする中で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」の育成を目指し、共通事項の実感的な理解を養うことを目的としています。

生徒が造形実験を通してそれぞれの表し方や活動場所を広げていくため、実験の見取りや個別指導の工夫が必要です。また、最後の発表会をするにあたり、学びの蓄積が必要です。そこで、私たちは毎時間 ICT を活用し、デジタルでの実験記録を積み重ねさせます。(株)サンワの

「レポクラフト」という授業記録共有型アプリを使用します。実験の様子を撮影し、記録していくことで、工程を確認したり、自己分析を行い次回の造形実験に繋げたりすることが可能となります。



写真1

写真2

写真3



写真4

写真5

写真6



写真7

写真8

授業の終末では、研究成果をクラスで発表し、質疑応答を通して、それぞれが追究し納得した造形的な視点について相互理解を深め、造形的な視点を言語化し習得していきます。

3 今後の計画等

各校で造形実験を重ね、定期的実践報告を行うことで、教師の見る力、見とる力を育てていきます。また、お互いの授業を確認し合い、授業改善や教材開発を行っていきます。

朝鑑賞

代表者：沼田 芳行（所沢・向陽中）
原稿作成者：佐藤 彩弥（所沢・小手指中）

1 チームの説明

平成27年度に所沢市立三ヶ島中学校において、武蔵野美術大学（三澤一実教授）の協力を得て、大学生をファシリテーターに作者とコラボレーションする総合的な学習の時間「対話型芸術鑑賞教室」を行った。

このスポット授業は、生徒の学習意欲の喚起につながり、子どもたちは初めて目にする世界に食い入っていた。特に芸術作品を鑑賞しながら、思ったこと・感じたことを口にするのは、普段の授業では発言しない生徒も発言をするなど、意見交換する取組が新鮮に映った。この一連の事柄が、生徒の学習意欲を喚起させるのに、これまでにない新たな取組として有効な手段であると感じた。それくらい生徒のこれまでにない発言の様子に教師自身が何かをつかんだのである。

三澤氏からの提案は、朝の時間を使って、芸術作品を鑑賞して「考える→考えたことを口にする」取組から始めることであった。生徒の学びに向かう力を高めるきっかけとして、これを「朝鑑賞」と名付け、朝読書の時間を週一度こちらに変え、「考えたこと」を「自分の口」で表現する活動を、全ての教員で行い、学校として恒常的に行うことにした。同時に校内研修で教職員も「主体的・対話的で深い学び」の具現化へ向けて、新しい学習指導要領の方向性を確認した。

さらに、これからの時代に求められる教師像に、ファシリテーター（人と人が学び合う場をつくり、その場が深まるように促す人）としてのスキルを身につけていくことを大事にした。そして、対話を通して生徒の探求心を育む力をつけることを目標に置いた。



2 これまでの取組等

朝鑑賞は、朝学活の前（8:30～8:40）に朝読書に充てた10分間を使い、毎週金曜日の朝、担当の教員が絵画等の作品を各教室に持参して行う。武蔵野美術大学と県立芸術総合高等学校美術科の協力の下、学生が制作した作品を借用し、実施した。

内容・方法だが、全ての教員が芸術作品を教室に持ち込み、教師がファシリテーターとなり、作品から見えるもの、色使い、自分の感じ方、作者の思い等を発言する。教師は生徒の発言をつなげ、考えが広がるように働きかけ、生徒の対話力の育成を行うものである。朝の10分間で教師と生徒、生徒と生徒が芸術作品を媒介に対話をする。毎週の積み重ねがやがて対話力の育成につながる変化をもたらすことを仮説として取り組んだ。



答えのない芸術作品を観て、感じたことを口にする。その口にした言葉を聴き「どこから、そう感じたのか」と根拠を問う…これまでの授業で当たり前だった「答えがある問題に対し、正解を探す」ものとは全く異なる活動に、戸惑いを感じたのは生徒ではなく、むしろ教師のほうだった。それは、ファシリテーターとしての役割が求められたからである。この活動の終末に、教師がひとつの「解」を出しまとめたい気持ちを抑え、「どうなんだろうね…」で締める10分間の活動。この毎週10分間の取り組みを苦痛に感じる教師がいなかったといえは嘘になる。実はこのことが、新学習指導要領の具現化につながる壮大な取組となっていった。

3 今後の計画等

朝鑑賞を進めてきたこれまでの足跡をまとめておくこと（成果と課題）と、現在取り組んでいる学校に様子を伺いその様子を伝えられるようにする。

4 関ブ口埼玉大会に向けて

なかなか実践例の少ない取組なので、よさが伝わり、美術のもっている一側面が、学校づくりに寄与することも伝えていきたい。

分科会テーマ ③Create 自己表現を中心に

図美好場（ズビズバ）

代表者：大島 伸夫（上尾・大石中）
原稿作成者：大島 伸夫（上尾・大石中）
山田 空（上尾・大石小）

1 チームの説明

研究チーム「図美好場」は、図工美術が好きな先生たちが集う場所である。このチームは「対話と多様性」を基盤として、小学校、中学校、高等学校、大学、特別支援教育に携わる先生方が様々な立場から対話を重ねてきた。

2 これまでの取組等

授業実践の「悩みや課題」をキーワードにし、話し合いの柱とした。オンラインミーティングは動画にして記録に残し、共有した。また、アンケートから課題や研究の方向性を見出し、多様性のある仲間との対話から課題とその解決策を探っていくことができた。4つの実践報告を紹介する。

【実践報告1】

題材名：中学校2年生「アートカードで鑑賞」

鑑賞の題材である。授業に参加する特別支援学校の生徒も楽しく取り組めるよう設定した。

(1)教師の困り感

- ・楽しむだけで終わらない鑑賞方法はないか。
- ・特別支援の視点からどのような配慮が必要か。

(2)図美好場オンラインミーティングの解決策

- ・楽しむだけでも十分に学びにつながっている。難しく考えすぎない。
- ・鑑賞活動の際は教師が言葉を引き出す手立てを講じ、教師が項目を提示・選択させ、生徒が言葉を紡ぐ。（色・形・雰囲気など）
- ・「嘘っぱち鑑賞会」という実践がある。名画を情報なしで、自分の想像・発想で紹介する。自分の見方を大事にする指導の工夫である。

【実践報告2】

題材名：中学校2年生「抽象画」の実践

印象深い出来事を形や色などで表す題材である。

(1)教師の困り感

- ・作品のコンセプトが、事前に取り組んだワークシートの延長であり、深める手立てが必要である。
- ・生徒の心を揺さぶる導入の仕方や表現を引き出す指導のあり方はないか。



(2)図美好場オンラインミーティングの解決策

- ・抽象表現の伝え方として「こういう表現もあるよ」程度でもよいのではないか。
- ・心象表現にした方が、生徒は理解しやすく、取り組みやすくなるのではないか。

【実践報告3】

題材名：小学校6年生「今の思いを形に」

今の気持ちを、粘土に表す題材である。

(1)教師の困り感

- ・「表したいことが見つからない」や「主題への深まりがない」などの課題が見られた。

(2)図美好場オンラインミーティングの解決策

- ・児童の表現したい思いは何かに気付くこと。
- ・効果的に表すには表現方法をどう提示するか。



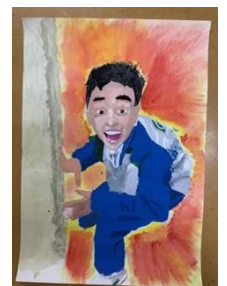
【実践報告4】

題材名：中学校3年生の「今を生きる私へ」

自画像の実践である。

(1)教師の困り感

- ・「生徒を本気にさせるための導入、発問、言葉かけ等の工夫」が必要である。
- ・特に表したい自分がない、思い入れがない。
- ・顔を上手く描けない。



「見つけてくれてありがとう」

(2)図美好場オンラインミーティングの解決策

- ・顔を描かなくてもできる表現の可能性を生徒に提示したらどうか。
- ・主題を考える時間でウェビングマップなどを使い、自分を深める時間を作ってはどうか。
- ・題材名を工夫し生徒がイメージしやすくする。

3 今後の計画等

まず、今年度は研究の視点を基に各自が授業を
実践し、共有していくことで研究の内容を修正し
た。来年度は2回授業を計画し、実践、検証して
いく。

時期	活動内容
1月	研究内容の決定
2月	実践発表と協議・各自の授業実践
3月	実践発表と協議
4・5月	授業研究1 授業計画・指導案検討
6月	授業研究1 授業研究会・協議会
7月	授業研究1 振り返りとまとめ
8月	授業研究2 授業計画・指導案検討
9月	授業研究2 授業研究会・協議会
10月	授業研究2 振り返りとまとめ
11月	発表

4 関プロ埼玉大会に向けて

(1) 研究の課題について

実践発表を積み重ねていく中で、「絵や立体、彫
刻に表す題材における発想や構想の指導がうまく
いかない。」ということが課題として上がった。

工作やデザイン、工芸に表す題材では、目的や
条件がある程度明確にあることで、児童や生徒は
比較的発想や構想がしやすい。一方で、絵や立体、
彫刻に表す題材では、見たことや想像したこと、
感じ取ったことや考えたことを基に、表したいこ
とや主題を見付けたり生み出したりしていく。そ
のため、児童生徒がそれぞれに想像を広げたり、
自分自身を見つめたりしながら、自ら発想や構想
を深めていく必要がある。そして、そういったと
ころの指導が不十分であると、児童生徒が表した
いことや主題を生み出すことに困難が生じるので
ある。

そこで、発想や構想の場面において、児童生徒
が発想や構想を深め、表したいことや主題を生み
出すことができるような指導について考察し、実
践していく。

(2) 研究の視点について

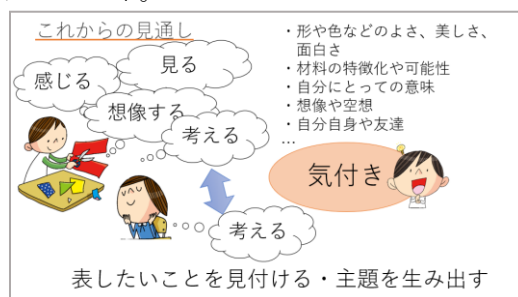
児童生徒が表したいことや主題を生み出してい
く過程の「気づき」に着目して授業を計画実践し
ていく。

児童生徒は、新しい材料に触れた時の形や色、
質感や触り心地等感じたことや、身近なものやこ
とのよさや美しさ、楽しかったことなどの経験し
たこと、夢や想像したことなど、様々なきっかけ
から表したいことや主題を見付けていく。そして
その過程において、「対象となるものやことの、自
分にとっての意味や価値に気付いていくこと」で
発想や構想を深めていく。

例えば、筆で線をたくさん描いていく中で、線
の上に丸い形がたくさん連なっていく感じから、
電車の車輪のようだ気付いて電車が走る様子
を表していく。画面の中で電車が縦横に走る楽し
さに気づき、友達を描き加えようとする。また、
普段何気なく見ている木をじっくり見たり触つ
たりすることから、形や色などの特徴を感じ取り、
「わたしは真っ直ぐに空に向かって伸びている、
この木が好きなのだ。」ということに気付く。また、
そのような木と自分自身を重ね合わせ、自分自身
も真っ直ぐ生きていきたいという願いにも気付く。

このように、見たり、感じたり、想像したり、
考えたりしたことから、次々と「気づき」が生ま
れ、新たな思考が始まり展開していく。さらにそ
れを繰り返していく中で、発想や構想が深まり、
表したいことや主題が生み出されていくと考える。

授業を計画、実践するにあたって、児童生徒が
題材において、どのタイミングで、何に気付いて
いくのかということを確認にしたうえで、表した
いことや主題につながる「気づき」を促す手立て
を考察していく。



分科会テーマ ③Create 自己表現を中心に

ART SWAN

代表者：高鳥 麻耶（新座・第二中）
原稿作成者：砂川 夏菜（さいたま・白幡中）
飯田 成子（朝霞・朝霞第五中）
大森 晴海（和光・第二中）

1 チームの説明

朝霞地区（志木、和光、朝霞、新座）の頭文字 SWAN とスワンボートの皆で協力して進む共同体としてのイメージを組み合わせたもの。研修の場を設けコミュニケーションをとり、地域の美術力を高める目的で結成された。

2 これまでの取組等

・研究テーマの設定

テーマ『工芸やデザインの授業において生徒が主体的に取り組むための評価と工夫の情報共有』

工芸やデザインをテーマに設定した理由として、工芸は取り組んでいる学校が少ないと言われていること、また教員が工芸題材への取っ付きにくさを感じていることが挙げられる。

・ワークショップ開催

第一回…「メッセージを持ち歩く」SDGs をテーマにしたメッセージをデザインし、新日本造形社のサン描画スクリーンを使ってエコバッグにプリントするワークショップを行った。

第二回…「羊を体験する」羊毛を使ってフェルト加工を学びながらどんな題材ができるか考えるワークショップを行った。



・授業実践

【朝霞市立朝霞第五中学校
飯田先生による『おもてなしの器』】

使用するだけなら 100 円均一の商品でもよいところだが、おもてなしの器では『使う相手』や『使う場面』を使うことによってどんな気持ちになって

欲しいか』を構想させる。完成後に実際使ってみたレポートや、他者による評価も取り入れ、まとめ、振り返りをする。生徒にとって工芸も自分の表現なのだということを知ってもらいたい。大切なのは作り方を学ぶことではなく、試行錯誤しながら自分の思いや主題を生み出すことである。そのため構想を練る段階で十分な時間を費やすことに重点を置く。

工芸はつくって終わりではなく、使ってみる、使ってもらい、そして作品をつくることにより、身の回りにある全てのものによさや価値を見出していき、自分の生活に取り入れることで生活を豊かにしていく、それが工芸の魅力だと考える。

3 今後の計画等

第三回ワークショップの開催

「陶芸のワークショップ」では、手びねり、たまづくり、ひもづくり、タタラ板を活用した基本的な粘土の扱い方や道具、釉薬、陶芸絵具の紹介などを行いながら作品をつくる。児童生徒の主体性を伸ばす課題設定を模索しながら粘土に触れるワークショップを行う。

実技実習の計画を立て、実施をする。指導と評価の一体化、取り組みやすい工芸の課題設定、実例を多数挙げていく。

4 関プロ埼玉大会に向けて

実践例を挙げ、工芸への取り組みやすい研究を重ねる。プロセスの可視化、相互鑑賞の実施などを行う。また、生徒の学びを見るための評価工夫についても課題としていく。評価のあり方として、評定につながる教師側の評価と、生徒にかえる教育的評価の関わりについては、生徒の主体性を伸ばすには教育的評価を模索することが重要なことであると考えられる。アンケート結果からは、生徒にかえる教育的評価への工夫やアプローチがまだまだ少なく、生徒の主体的な活動につなげるために、今後深めていきたい。

分科会テーマ ④Life 豊かな生活づくり

のすっ子アートひなちゃんず

代 表 者：石塚香代（鴻巣・赤見台第一小）
原稿作成者：石塚香代（鴻巣・赤見台第一小）

1 チームの説明

鴻巣市小中学校図工・美術主任を中心とした分科会チームである。このチームでは、「地元鴻巣の伝統文化や伝統工芸をいかに子どもたちに伝えることができるのかを考えよう。」という思いから研究を深めることにした。

2 これまでの取組等



(1) 子どもたちの活動

鴻巣の伝統工芸では有名な「鴻巣びな」がある。子どもたちは、老舗の人形店から人形製作用の布を提供していただき、思い思いの人形をつくった。そして、つくった人形を地域の勝願寺に飾ってもらい、地域の方々に見ていただくようにした。このことは、学校の中で生まれた造形文化を地域に発信できる場となった。

(2) 分科会チームのフィールドワーク

私達自身が「鴻巣の赤物」とは何なのか、実際に赤物をつくっているお店の製作現場に行き研修を行った。

そこで、昔の桐ダンス作りから出たおがくずにのりを入れて固め、色を付けたものが「鴻巣の赤物」であることを知った。その歴史を知ると、「鴻巣の赤物」とはおがくずという身近な物を使った昔の人たちの素朴な造形遊びから発展したものではないかと考えた。



(3) 赤物をつくっている方にインタビュー

コロナ禍の為、地域の方と子どもたちが共に学ぶ機会が減ってしまっている。そこで、分科会チームがインタビューに伺って、赤物とはどのようなものなのか、子供たちに伝えたいこととは何かを動画に撮り、授業で子どもたちに伝えられるようにした。

(4) 鴻巣市立吹上北中学校の実践授業

コロナ禍ということもあり、子どもたちは実体験（聞く、触れる、見るなど）に基づく経験を積み重ねる機会が減ってしまった。そのような中、他者との出会い、実物に触れる機会をできるだけ多く設定できるようにした。コロナ禍での授業だったこともあり、「約 300



年前の人が、伝染病から子どもを守るためにつくった気持ちがわかる。私も同じ願いだ。」という気持ちを持ち制作する生徒も多くいた。

3 今後の計画等

今回の実践授業は中学校で行われたが、今後、小学校でも行う予定である。地域の方の話を聞き、子どもたちに地元鴻巣の伝統工芸がどう伝わるか、そして、どのような思いで小学生たちが赤物をつくるのかを研究していく。また、学校内だけで完結する造形的な学びでなく、地域や社会に開かれた造形的な学びとは今回実践したもの以外にどのようなものが、どのような方法であるのかも考えていきたい。

4 関プロ埼玉大会に向けて

子どもと大人の学び合い「知って→考えて→対話して→変わる」ことを私たちは目指している。好奇心旺盛な鴻巣の子どもたちの力を高めるために、私達は「未来につながる・地域とつながる」研究をこれからも深めていきたい。

舟戸幼稚園

1 幼稚園紹介

本園のある川口市は、埼玉県南部に位置し、東京都との境に荒川が流れています。そして、本園は川口市立の公立幼稚園として昭和26年に開園し、川口市の中心部にありながら、荒川の土手沿いの緑豊かな環境に立地しています。昨年度から3歳児保育がスタートし、年少組・年中組・年長組、各1クラス、計3クラス、総園児数53名が在籍しています。教育目標は、「あかるく・なかよく・たくましく」で、子供たちは素直で優しい子が多く、保護者も協力的です。しかし、自分の気持ちを上手く伝えることが難しい子や友達の気持ちを受け止められずに自己主張をする幼児も増えてきています。また、特別な支援が必要な子や日本語を話すことができない子の入園も年々増えているという状況もあり、幼児理解を深めながら、一人一人の子供たちに応じた丁寧な保育に努めているところです。

舟戸幼稚園には、大きく3つの特色があります。

一つ目は、舟戸学園としての連携教育です。

園内には、シンボルマークであるひまわりが咲き、舟戸小学校・南中学校と同じ敷地内に立地している環境を生かし、舟戸学園として連携教育を積極的に保育に取り入れています。異年齢との交流活動を通して、人と関わる力の育成に努め、小学校・中学校への滑らかな接続を図っています。

二つ目は、自然体験活動の推進です。

雄大な荒川の自然の下で、土手を走り回ったり、四季折々の草花を摘んだり、虫を捕まえたり、観察したり、畑での栽培活動などの自然体験活動を積極的に取り入れ、生き物の命や自然を大切にしようとする心情や思いやりの心を育てています。

三つ目は、一人一人に応じた質の高い幼児教育です。

自由保育の中で、幼児の主体性を重視し、ねらいに基づいた意図的な保育を展開することで「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を育てています。幼児自らの「このような遊びをやってみたい、工夫してみたい、友達と交流したい」という気持ちを受け止めた環境整備を行い、日々の遊びや行事を計画・活動させながら、ねらいに基づいた意図的な保育を通して主体性を育てることで、小学校の学びをワクワクしながらスタートし、生涯における主体的な学びにつなげています。

活動例として、劇遊びでは、普段の読書からやってみたい劇を幼児が決めます。物語のストーリーやセリフ、服装や小道具、背景なども幼児の発想からスタートし、ほとんどが幼児の手作りです。また、登場人物の気持ちを話し合いながら、劇づくりを進めていきます。劇遊びを通して達成感や主体性が身につく、協同性、思考力の芽生え、言葉による伝え合い、豊かな感性と表現等「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が育まれます。

その他、毎年川口市教育委員会より「学校間連携教育」の委嘱を受け、令和3、4年度は、「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進 ～他者とよりよく生きる幼児・児童・生徒の育成～」を研究主題として、舟戸小・南中と連携して研究に取り組み、1月25日には、本発表を予定しております。舟戸学園の幼児・児童・生徒に身に付けさせたい力は、他者とよりよく生きる力であるととらえ、幼・小・中がそれぞれの発達段階に応じて、『発信する力』・『受容する力』を培う研究を舟戸学園全体で取り組んでいます。ぜひ、1月25日の本発表での子供たちの成長をご覧いただければ幸いです。

2 研究経過

造形教育の研究をするにあたり、造形とは何かについて職員間で話し合いをしました。まず、造形することを楽しみ、想像する力を十分に発揮させるよう援助していくこと、また、十分に遊ぶことによって幼児の意欲が高められ、造形活動の表現する力、形にする力、想像力へと昇華すること、そして、遊びの充実を図りながら楽しく造形していけるような環境の構成や援助の工夫についての研究をしていきたいと考えました。

これらのことを踏まえ、大会コンセプトにある3つの追究観点に当てはめて

- ①「受け止めよう子どもの心」では、幼児の思いや願いを受け止め、幼児が遊びや生活の中で様々な表現を楽しむ。
- ②「育てよう確かな力」では、見たこと、感じたことなどを友達や教師と伝え合うことを通して、豊かな感性を養う。
- ③「深めよう生き生き授業」では、描いたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどして、幼児が生き生きと遊びに取り組む。と考えました。

次に、研究方法としては、日々の保育の振り返りと事例研究を中心に進めています。

3つの追究観点を基に実践事例を書き、園内研修でファシリテーターを中心に事例研究を行います。その際、幼児が楽しく造形活動をしている姿や教師の援助に視点を当て、主に環境構成や援助の工夫について研究を深めています。

また、川口市立2園の研究会において、美術の先生より「感じて、考えて、表現する幼児の育成」の講演をしていただきました。

ご講演から、【子供たちは、ものとの関わりからイメージが広がり、理想の世界を楽しんだり、自分の思いや願いから描いたり、つくったりして表現する。様々な素材に触れる機会をつくっていくことが大切である。自分一人だけでなく、友達と一緒に発見できることもある。また、子供たちが描いたり、つくったりしているときに、教師は「〇〇つくってるんだ」などと声をかけがちであるが、あえて声をかけないことも大切である】ことなどを学びました。

そこで、保護者の協力のもと、空き箱や容器などの様々な素材集めをすることや幼児同士のつながりを大切にする保育の実践に心がけ、何をつくっているかよりもどんなことをしているのかを見守っていくようになりました。

今後は、こども環境デザイン研究所代表の矢生 秀仁先生にご指導をいただき、さらに造形教育について研究を深めていきたいと考えております。

研究発表当日の内容としては、動物園遠足の経験を生かして遊ぶ「動物園ごっこ」の中での造形活動を予定しております。友達との関わりの中で、多様な材料や素材と関わり、試したり、工夫したりすること、また、幼児のイメージを引き出し、幼児同士が思いや願いを共有して、描いたり、つくったりする幼児の姿を目指しています。

今後は、指導案作成にあたり、幼児の発想やイメージの共有化や見える化を図りながら、指導案の改善も検討していきたいと考えています。

埼玉県造形教育の大切な理念である“子どもの心”を見つめ、受け止め、励ましていくという観点と「3つの追究観点」を羅針盤に、幼児がワクワクするような造形活動を展開していけるよう、さらに研究を深めていきたいと思っております。

第63回 関東甲信越静地区造形教育大会
 第63回 埼玉県造形教育研究大会
 埼玉大会経過報告会

主体的に自信をもって活動する児童の育成

～思いをもって、挑戦する楽しさを味わう図画工作科の実践を通して～

令和4年11月16日(水)
 川口市立元郷南小学校

川口市立元郷南小学校は…

- ・児童数778名 学級数24学級 教職員数38名
- ・学校経営方針
 「地域に『信頼』される教育の推進 ～「笑顔」と「誇り」～」
 「楽しい学校、温かい学校、美しい学校、元気な学校」
- ・学校教育目標
 「自ら学ぶ子」「心豊かな子」「強く丈夫な子」
- ・昭和38年開校 今年度60年目



川口市立元郷南小学校は…

- ・かつて鑄物業を中心とした工業地域
 →現在は、中・高層住宅が急増し、市内でも児童数が多い地域。
- ・埼玉県、全国平均を上まわる。
- ・苦手なことに対して諦めがちで、主体性に課題がある。



令和4・5年度 川口市教育委員会委嘱研究

「学力向上」に関する研究 [経過報告]



主体的に自信をもって活動する児童の育成

～思いをもって、挑戦する楽しさを味わう図画工作科の実践を通して～



はじめに

児童が「主体的に自信をもって活動する授業」とは

・思いをもつことができる

・挑戦する楽しさを味わう



授業

はじめに

図画工作科における学習活動を通して、
主体的に自信をもって活動する児童を育成するには

児童がイメージをもてるような導入の工夫

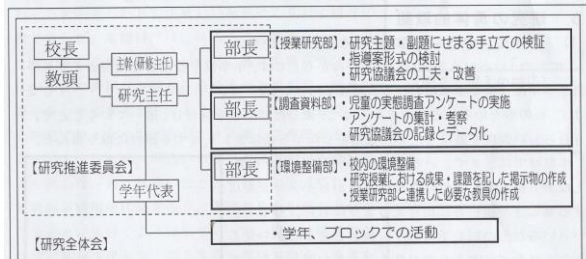
思いを豊かに表現する活動の工夫

豊かな思考を働かせて、自他と交流する工夫



はじめに

研究組織



- 研究推進委員会
研究の方向性や進捗状況を確認する。
- 研究全体会
研究の方向性を全体で確認する。また、研究授業における指導案検討、研究協議を行う。

〈図1 研究組織図〉

具体的な実践

①児童がイメージをもてるような導入の工夫



具体的な実践

② 思いを豊かに表現する活動の工夫



具体的な実践

③ 豊かな思考を働かせて、自他と交流する工夫



最後に ～研究の成果と課題～ 成果

導入 児童の学習意欲を高め、主体的な活動・知識の習得につなげることができた。

活動 発問の精選、関わりが生まれやすい場の設定、試行錯誤する機会の保証は、思いを広げることに有効であった。

交流 友達と自然と交流できる時間や場を設けることは、児童の表現力を高め、技能や鑑賞の能力の育成につながる。

最後に ～研究の成果と課題～ 課題

導入 何度も試行錯誤する時間を設けるために、児童がイメージをもてるようにしつつも、導入の時間を短くするようにする。

活動 児童同士で見合う時に、形や色に注目することや、どこを工夫したかなど見る視点をしぼれるようにする。

交流 いつ、どのように交流や鑑賞を設定すると効果的なのかさらに研究を深める必要がある。

川口市立南中学校

川口市立南中学校の発表は、分科会テーマ④Life の実践です。

Lifeは、地域と関わり、地域の人々となつながら、生活や社会に開かれた造形的な学びを探求することとなっています。

川口は、ものづくりが盛んで、文化的な建物等もある地域です。しかし、中学生の実態としては、あまり地域と交流を持っていません。授業を通して、美術と日常や社会との関わりを考えさせ、街の魅力に目を向ける題材を取り扱いたいと考えてテーマを選びました。しかしながら、コロナ感染症拡大の恐れなどから街に出ることは実際のところできておりません。また、クラス数も多い中、授業として街での活動を実践することは、なかなか難しい状況にあります。そこで、毎日目にする身近なものを題材にしようと「マンホール」に着目しました。

今回題材として考えているのは、『地域の魅力を活かしたマンホールをデザインしよう！』です。こちらの題材名は、仮とします。なぜマンホールに注目したのかというと、川口市は、古くから鋳物の街として発展してきました。前々回の東京オリンピックの聖火台などを作ったことでも知られています。南中学校近隣には鋳物工場があり、生徒も小学校の時にベーゴマを作った体験などがあるそうです。

マンホールには地域の産業やキャラクターなどをモチーフにデザインがされているものがあり、その地方ならではの文化や生活環境との関わりが見られます。色彩豊かで多種多様なマンホールは全国的にも人気で、マンホールカードも配られています。川口市にも、川口の花である鉄砲百合と、かつて作られていた竹細工の模様をモチーフにデザインされたマンホールが設置されています。授業では地域にちなんだマンホールを、造形的な見方考え方を働かせてデザインする予定です。

今年に入って、近隣の中学校の美術科教員とも、協議をもちました。夏休みに、川口市のアートギャラリーアトリアで、マンホールの鑑賞について詳しい方の講演があったので美術科教員数名と参加してきました。また、デザインに関して、川口市上下水道課に質問したり、川口市の企業にアドバイスをもらったり連携できないか模索しているところです。

実践発表を行う本校の生徒は、勉強、部活動、行事等に積極的に取り組むことができます。学力も高く、保護者も学校への期待を大きく寄せています。美術の授業に関しても、一生懸命取り組む様子が見られます。生徒たちは知識を生かして発想することや、作品を丁寧に仕上げること、自分の考えを文章にまとめることを得意としています。一方で、新しいことに挑戦すること、他者と違ったことや、独創的に発想するという面で課題が見られます。今回の授業では、生徒たちの得意分野を生かすとともに、より豊かな創造性を育みたいと考えています。

今回の授業は、中学校2年生を対象に考えています。現在授業では、1年生はアルミホイルを使って生き生きとした動物を作る課題を行っています。動物の体のつくりを理解し、美しいラインや動きのある形を探っていきます。3学期にかけては、モダンテクニックを利用して、絵に表す活動や、身の回りを美しい模様で飾るデザインの授業など、色彩に関する理解を深める学習を行っています。2年生では、1学期に様々なアングルで風景を切り取って写真に表現し、視点の多様性を探る授業を行いました。今回の題材では、それまでに学習した色彩や形についての知識を生かしながら、個々の想像力を育むことができるよう、授業内容を考えているところです。身近な工業製品のデザインの学習を通して、美術と生活との結びつきや環境との関わりを考えることも、ねらいとしています。今年度は3学期に、現2年生でプレ授業を行う予定です。

来年度へ向けて、以上のような取り組みを行っています。今後、より良い発表ができるよう授業研究を進めていこうと考えています。

川口市立高等学校 美術指導の特色と課題

川口市立高等学校 美術科
教諭 吉川 和典
kikkawa.kazunori.as@kawaguchicity-hs.ed.jp

川口市の特徴

川口市は埼玉県南東部の東京都と隣接し、古くは鋳物や中小企業の工場・植木などの「ものづくりの町」として発展してきた。近年は工場などの数も減少しているが、首都圏に近いことから人口も約60万人に増え、中核都市に指定され住宅都市として発展をしている。また、スキップシティ（映像産業拠点）など施設を備え、映像分野など新しい産業への支援を行っている。

本校の現状

◎川口市立3校（旧川口高校 旧川口総合高校 旧県陽高校）が統合し
旧川口総合高校（川口市上青木）に新校舎を建設して平成30年4月1日に開校

- 県内・周辺地域での進学トップ校を目指し5年目、令和4年度SSH（スーパーサイエンススクール）に指定された。
- 普通科（学年10クラス）、理数科（1クラス）、スポーツ科学科（2クラス）を開設
 - 付属中学校（令和3年開校）、定時制を併設し校舎を共有している。

本校生徒の実態と学習の取り組み

川口市内で唯一の市立高校ではあるが、およそ半分は市外の近隣の生徒も通学をしている。理数科、普通科は普通コースとスポーツ科学コースに別れ、それぞれのカリキュラム展開をしている。ほとんどの生徒は高い目標をもち多様な分野への大学進学を望んでいる。よって学習指導の受験科目を重視する傾向がある中、芸術（実技）科目にも熱心に取り組む姿が見られ、家庭環境も芸術文化に対する興味関心が高いとみられる。

SSH推進のための「steam教育」や多様な進学に対応するため、芸術は重要な役割を担っていると考え、本校の特色を生かした学習の取り組みをしている。また、毎年10名程の美術系や実技を伴う建築系の進学を希望している生徒がおり、必修授業に加え、専門性を持った授業と授業外（土曜講習など）での実技講習などを行っている。

芸術科（美術科目）の状況

教育課程 カリキュラム（令和4年度入学生）

- 普通科
 - 2年次「美術Ⅰ」2単位 必修（※音楽Ⅰ・書道Ⅰの選択必修）
 - 3年次「美術Ⅱ」2単位 文系必修・理系選択
 - 自由選択（学校設定科目）「美術総合研究」（3単位）選択
- 理数科
 - 2年次「美術Ⅰ」2単位 必修※ 3年次「美術Ⅱ」2単位 選択
- スポーツ科学科
 - 2年次「美術Ⅰ」2単位 必修※ 3年次「美術Ⅱ」・「CG概論」2単位 選択

「美術Ⅰ」の内容とねらい

- デッサン「紙コップ、手」鉛筆素描
 - 基礎的造形力の習得 バランス 陰影による立体、空間表現
 - 観察力の習得 観察からの気づき（発見）
- デザイン基礎「着彩演習」
 - 色彩理解（色彩学）
 - 着彩技術の習得
- デザイン「キャラクターデザイン」元素記号からのキャラクター発想
 - 思考力（発想、想像）の育成
 - イラストレーションによる伝達表現の理解
- 映像表現「フリップブックアニメーション」制作
 - 動画表現の理解
 - 抽象表現（色・形・動き）からキャラクター（性格）を視覚化し伝える。
- 彫刻（立体表現）「石ころ」（土鈴制作）石の模刻（着彩）
 - 観察、分析力・思考力の育成
 - 絵の具の混色

「美術Ⅱ」の内容とねらい

- デザイン「シンボルマーク」制作（自己オリジナルマーク）
 - 視覚による情報伝達の理解
 - 創造力の育成
- 版画表現 シルクスクリーンによる「オリジナルトートバック」制作
 - 版画手法の目的と理解
- 絵画鑑賞「油彩画研究レポート」作成
 - 油彩表現の理解（表現技法・表現意図・作家性・歴史性の関連を考察）
 - 発表能力の育成（ICT機材を活用した調査とプレゼンテーション）
- 絵画表現「静物画」油彩制作
 - 油彩材料と表現技法の習得
 - 表現の多様性を理解
- 彫刻（抽象立体）表現 パブリックアート（ミニチュア）制作
 - パブリックアートの役割と効果の考察
 - 「動き」をテーマにした抽象表現力の理解と育成

「美術総合研究」の内容とねらい

様々な表現方法を理解・研究し、自己の作品制作に反映させ授業を展開

- 「モダンテクニック演習」
 - 「陶器作品制作」
 - 「盆栽体験演習」 など
- 「卒業制作」作品例：F100号アクリル画 巨大オブジェ（段ボール）など
- 「卒業制作」校内展示

「映像表現」の内容とねらい

- ピンホール・カメラオブスキュラ撮影
 - 映像の歴史と仕組みの理解
- 一眼レフカメラ撮影実習
 - 撮影技術の習得
 - 写真表現の理解
- ストップモーションアニメーション
 - 制作技術の習得
 - アニメーション表現の理解と表現
- 人物表現（ドラマ）ワンシーン制作
 - 実写動画の撮影・編集技術の習得
 - ストーリー表現の理解

「CG概論」内容とねらい

- 自己紹介ボードの制作
 - 画像処理ソフトとコンピュータ操作の習得
- ピクトグラム・サインの作成
 - 視覚情報伝達の理解
- オリジナルカフェの企画・デザインプロデュース（シンボルマーク・メニュー制作）
 - デザインの役割と効果の理解
 - 発表（プレゼンテーション能力）の育成
- モーショングラフィック制作
 - 動きのあるデザインの理解と造形力の育成
- 写真コラージュ（合成）によるオリジナル生物図鑑制作
 - 観察力・想像力の育成
 - レイアウトデザイン能力の育成
- インスタレーション作品制作と発表
 - テクノロジーと表現の可能性の理解

カリキュラムの課題

現状のカリキュラムは「共通テスト」に対応するため芸術科目など実技科目が縮小される傾向にある。

- ❖ 芸術科目は「芸術Ⅰ」は2年次にて全員が必修としているが、「芸術Ⅱ」は理系は選択である。
 - 全員履修が望ましい。
 - 現代社会において芸術は必要なスキルであり、「steam教育」の観点やこれからの多様性に適応した人材育成にとって重要な教養であると考えられる。
- ❖ 学校設定科目を開講
 - 自由選択科目に専門性のある科目を設置する必要性
 - 芸術系の進学を検討している生徒が複数見られる。建築、映像など

これからの教材研究と課題

- 市内で唯一の市立高校である。地域の特性を生かした教材研究
ものづくりの町の特徴を活かしたコラボ授業
 - 「盆栽体験」「鋳物による作品制作」「地域のフィールドワーク（写実実習）」
- 教科の特性を活かした他教科との横断性のある教材内容の開発
 - SSH事業「steam教育」の実践
- ICTの機材・設備、機能を活用した授業開発
- リモート授業に対応した教材開発
- 観点別評価の確立

指導講評

【A ブロック】

武蔵野大学教育学部教育学科特任准教授 大杉 健 様

- ・GALA ポン。とても楽しい発表で興味を惹かれた。大会テーマの「ワイワイ」が感じられた。造形遊びは説明をすることに重きがいきがちだが、まずは子どもがどのようにわくわくしているかを把握しようと努めているところがよい。造形遊びをしていると、子どもが何をしているのか全体像がなかなか見えない、また個々がなかなか見えないということがある。そういうことに対して ICT の活用の方法について提示があり、これから役立つ。保護者にもぜひ見せたい。大人も子どももわくわくするような造形遊びの授業が展開できたらよい。
- ・北埼チーム。アンケートを丁寧にとってあった。実態を知ることが大事。アンケートをとったあと、それをさらに分析している点もよい。全体像を把握すれば組織的・制度的に必要な対応が見えてくる。個別のアンケートからは個の課題が見えてくる。制作中の声かけについても注目していた。実技研修も大いにやるとよい。授業研究をやったら実技研修もやるというのがやりやすい。
- ・Art Base。「自分事になる授業」というテーマにわくわくした。「わいわいタイム」もよいアイデア。これからの研究会の中でいろいろなチームがやっているとよい。自分事になる授業を目指して子どもが何を学んでいくのかについてキーワードの中で述べられていた。ひとつひとつのキーワードがとても大事。幼稚園の子どもの絵のプレゼンでは、幼稚園の先生たちの声かけによって、子どもたちが自分の意味だけでなく、そこから意味をつくり直して自分の価値をつくっていくことにつながっていた。

【B ブロック】

武蔵野美術大学教授 三澤 一実 様

- ・ICT はこれから重要なツールになってくる。戸田市は全国的に見ても進んでいて、今回の発表もさすが戸田市だなという感じがした。図工美術においてはプロセスを記録しておく e ポートフォリオが重要な学びのツールになっていく。自分の学習を見返すことによって今まで自分がやってきたことが自覚できる。
- ・タブレットで絵を描く際は、図工の知識とは何なのかを考えながら使っていく必要がある。図工で生まれる知識というのは身体をともなっている。「共通事項」を見れば分かるが、実感的に個人が自分の身体を通して感じ得た感覚が知識になっていく。この知識は個人のものではなく、そこに共通性を見出していくことによってコミュニケーションとしての美術が成立する。紙のザラザラ、クレヨンのぬるぬる、それがこすれたときの感覚。絵の具を画用紙に塗ったときのスーッとこの感じ、ケント紙に塗ったときのツルツとした感じ。この「感じ」が図工美術の知識になっていく。ICT を使うことでどのような学びがそこに生まれるのかを常に考えていかなければならない。

- ・アートラーニングブックについては、「塗り絵」という表現ではなく「色彩シミュレーション」と呼んではどうか。塗り絵という発想はなくただ塗っているだけ。イメージと色を関連させることには「共通事項」の学びがある。北斎の絵も色を変えることによって全然見方や感情が違ってくる。それをみんなで議論することが重要。
- ・作品鑑賞で友達の作品に付箋をつけて交換することがあるが、書くことと話すことは全然違う。書くことをしたら必ずその感想をもとに言葉で対話をつくること。対話をするから見方がどんどん変化していく。
- ・個別最適化という言葉に気をつける。個人にとっての最適化だけでなくみんなにとっての最適化にもなっていかなければいけない。図工美術というのは個人の活動だが、図工美術を通すことによって他者と共感できる活動まで広げていく必要がある。自分や他者の言葉によって新しい発見や新しい考えがくり返し更新されていく。更新の回数を重ねることが学びになっていく。記録を残すことや付箋を書くことも回数を重ねることになる。全体を通して、身体というものを意識して活動していくとよい。

【C ブロック】

埼玉大学教育学部芸術学講座教授 石上 城行 様

- ・図美好場。メンバーのバラエティが富んでいる。共通の視点は子どもたちの「気づき」。気づきをうまく促せたときどういうことをしていたかについては多くの人の参考になる。子どもたちは気づきを通じて制作や活動を深めていく。そのためにどのような支援がなされたのかを教員自身が振り返ることが大事。その支援の内容やタイミングをふまえて、さらに深い主題につながっていくように新たな支援を考えていく。
- ・アーツワン。アンケートの内容が充実していた。評価には自己評価、友人の評価、第三者の評価がある。それぞれが重なることはほとんどない。この3つの評価を全部合わせると本当に正しい評価になる可能性が高まる。教員も当事者のひとりであり評価にどうしてもバイアスがかかるのは仕方がない。可能であれば複数の目で多角的な評価ができるようになってくると評価に対する考えも変わるのではないか。
- ・のすっこ。伝統工芸の赤い色の理由について、疫病が流行ったときに赤を塗って魔除けにしたという説明をしていた。現在もコロナ禍によっていろいろと制限を受けている子どもたちにとってはリアリティをもって心に響いてくる。何かを伝えるためには実感のともなった情報を届けてあげることが重要。子どもたちが今もっとも注目している、関心をもっているものをちゃんととらえて順番に情報を出していくと自分のこととして話を受けとめられる。
- ・題材の設定についても同様。今、子どもたちが興味関心のあるところを入り口にするように題材を設定する。目の前にいる子どもたちが今何を感じているか、何に興味をもっているかを冷静に見定めることが重要。

【幼稚園】

こども環境デザイン研究所代表 矢生 秀仁 様

- ・3学年で51名。1学年で17名の子どもたちというと、保育者が子どもたちに寄り添いやすい配置。
- ・幼児期の子どもたちに保育者が提示する見本は上手ならしいということではない。先生がきれいに丸を切ると「先生やって」となる子どもがいる。あえてザクッと子どもたちの身体の動きに沿ったような見本を提示することで子どもたちが自分の線をつくれることもある。
- ・廃材遊びは幼児期に特に有効。幼児期は、すべて自分で形を作るのは難しい。月齢や経験によっても差がある。廃材の形を組み合わせて見立てるところから造形が始まる。想像力と表現力の中で、表現力は月齢差がとても大きい、想像力についてはあまり差がない。表現が拙くてもイメージする力はいっぱいもっている。子どもたちが何をつくるかよりも何を思っどんなプロセスを経ているかに注目して保育者が造形環境をつくるのが大切。
- ・幼稚園、保育園の先生たちに「造形活動が好きか」と聞くと「好き」と手を挙げる先生はほとんどいない。幼児期の子どもたちの絵を評価の目で見ると評価されなかった子に苦手意識をもたせてしまう。子どもたちの思いやプロセスに寄り添って見る。想像することや表現することが楽しいということを幼児期にどれほど充実して経験させるかが重要。

【小学校・中学校】

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事 采澤 敬 様

- ・発表の中に子どもたちの写真が出てきて、どの子どもたちも生き生きとして楽しく活動を行っている雰囲気が伝わってきた。コロナ禍の中では学校の外へ出て地域と関わる活動は難しいが、マンホールのように身近なものを題材にして取り組むことは大事。他の市町村にも見本や指針として紹介できれば県全体を盛り上げる活動になる。
- ・小学校と中学校で共通していることは、子どもたちにどれだけ題材に興味をもたせるか、関心を向かわせるかという点で、教師の腕の見せ所。題材との出会いの第一印象が大切。いくら言葉で説明しても見本を見せても、なかなか先生の気持ちやイメージが伝わらないことも多い。材料や道具に直接触れてみて実感させるのが大事。
- ・どこを工夫しているのかと聞いても子どもたち自身が気づいていないこともある。「ここはどうやってつくったの?」「これって何を使ったの?」と具体的に聞いてみると、自分ががんばったところを認識できる。
- ・鑑賞活動を幅広くとらえる。見るだけでなく触る、聞く、などいろいろな感覚を働かせて鑑賞する。造形活動の中で自然に友達の作品を見られるような環境をつくる。

【高等学校】

さいたま市教育委員会指導1課指導主事 山岸 啓介 様

- ・報告の内容には専門的かつ幅広い表現活動があった。特にスーパーサイエンスハイスクールらしいもの、例えば元素記号の背景を考えてキャラクターをデザインする題材や、歴史や科学的な知識をもとに作家のレポートを作成する課題など。生活や社会の課題を解決するようなデザイン分野の表現活動が興味深かった。鋳物や盆栽などはものづくりの町としての地域の特性を生かし、実物に触れたり職人と連携したりするのは今後も様々な展開が期待できる。
- ・スキップシティが近くにあり、映像表現との関わりの強い地域の特性を生かし、様々な映像表現にも取り組んでいるのも魅力的。映像表現はシナリオを考える文学的要素や撮影・編集というICTを活用する技術的な要素など教科横断的な学びができる可能性の大きい題材。特にチームで制作するにあたってはアクティブラーニング、主体的・対話的で深い学びを期待できる。
- ・高等学校にも「共通事項」が新設され、改めて表現と鑑賞の学習に共通に必要な資質能力が示された。幼小中高で見通しをもって共通事項を意識した学習活動を各段階で推進していただきたい。予測困難な時代を乗り越えていく創造性がいかに育まれていくか、豊かな生活や人間性を築く力を見つけて社会にはばたいていくような姿を授業で実践していただきたい。

令和4年度 埼玉県美術教育連盟役員

顧問 山田 敬典 五井 修馬 場恒 安三 澤文 人松 本晃 野澤 優茅 野憲 一
 連盟長 山勝 拓美 笠原 秀夫 中村 恒博 俊 矢 嶋廣 明 根隆 之 加藤 修 中 川 北 中 小
 副連盟長 丹後 雅博 さいたま・尾間 木 岩田 直代 川口・鳩ヶ谷 小 鈴木 勢津子 所沢・北 中 小
 監事 森田 田中 一利 千貴 藤田 健真 梨 埼大 附 属 小 荒川 祥輝 埼大 附 属 小 小西 悟士 埼大 附 属 中
 研究部長 山田 板橋 野井 一利 千貴 藤田 健真 梨 埼大 附 属 小 荒川 祥輝 埼大 附 属 小 小西 悟士 埼大 附 属 中
 編集部部長 山田 板橋 野井 一利 千貴 藤田 健真 梨 埼大 附 属 小 荒川 祥輝 埼大 附 属 小 小西 悟士 埼大 附 属 中
 事務局局長 山田 板橋 野井 一利 千貴 藤田 健真 梨 埼大 附 属 小 荒川 祥輝 埼大 附 属 小 小西 悟士 埼大 附 属 中
 幹事 [本部役員事務局] 安藤 吉 日高 大介 さいたま・南浦 和 真 田 幸 さいたま・宮 原 小
 [本部役員事務局会計] 日高 大介 さいたま・南浦 和 真 田 幸 さいたま・宮 原 小

常任理事・理事 (◎:ブロック長 ○:地区代表 ◇:地区事務局長)

地区	常任理事	理事	理事	理事	理事
さいたま市	◎丹後 雅博 さいたま・尾間 木 小	○丹後 雅博 さいたま・尾間 木 小	石飛 才依 日吉 河鈴 駒阿 弾脇 木	井知 津田 高田 木村 込部 塚元 曾	か朋 純子 桂智 利祥 純郁 重
	○丹後 雅博 さいたま・尾間 木 小	○丹後 雅博 さいたま・尾間 木 小	石飛 才依 日吉 河鈴 駒阿 弾脇 木	井知 津田 高田 木村 込部 塚元 曾	か朋 純子 桂智 利祥 純郁 重
南 部	◎岩田 直代 川口・鳩ヶ谷 小	○山根 淳一 戸田 美川 朝川	高比 浦吉 門小 照松 梅吉	紀勝 健生 美一 彩一	美明 一世 咲枝 香義 綾
	○山根 淳一 戸田 美川 朝川	○山根 淳一 戸田 美川 朝川	高比 浦吉 門小 照松 梅吉	紀勝 健生 美一 彩一	美明 一世 咲枝 香義 綾
ロ ック	◎北足立南	○山根 淳一 戸田 美川 朝川	高比 浦吉 門小 照松 梅吉	紀勝 健生 美一 彩一	美明 一世 咲枝 香義 綾
	○山根 淳一 戸田 美川 朝川	○山根 淳一 戸田 美川 朝川	高比 浦吉 門小 照松 梅吉	紀勝 健生 美一 彩一	美明 一世 咲枝 香義 綾
西 部	◎鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	○鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	須藤 高渡 石柳 清稲 六菊 須赤 山森	田藤 山邊 井瀬 森水 垣本 池田 須赤 山森	敦美 裕美 美きぬ 伸礼 章美 文影 璃春
	○鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	○鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	須藤 高渡 石柳 清稲 六菊 須赤 山森	田藤 山邊 井瀬 森水 垣本 池田 須赤 山森	敦美 裕美 美きぬ 伸礼 章美 文影 璃春
入間 部	◎鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	○鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	須藤 高渡 石柳 清稲 六菊 須赤 山森	田藤 山邊 井瀬 森水 垣本 池田 須赤 山森	敦美 裕美 美きぬ 伸礼 章美 文影 璃春
	○鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	○鈴木 勢津子 所沢・北 中 小	須藤 高渡 石柳 清稲 六菊 須赤 山森	田藤 山邊 井瀬 森水 垣本 池田 須赤 山森	敦美 裕美 美きぬ 伸礼 章美 文影 璃春
比企 部	◎阿形 寿洋 和明 希己 み文 織薫 充	○阿形 寿洋 和明 希己 み文 織薫 充	新井 浦越 橋恵	か知 紀咲 理	お恩 美絵 子
	○阿形 寿洋 和明 希己 み文 織薫 充	○阿形 寿洋 和明 希己 み文 織薫 充	新井 浦越 橋恵	か知 紀咲 理	お恩 美絵 子

埼玉県美術教育連盟会則

第 1 章 総 則

第 1 条 本会は、埼玉県美術教育連盟と称し、事務局を会長指定の学校に置く。

第 2 条 本会は、美術教育の振興を図ることを目的とする。

第 3 条 本会は前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1 美術教育に関する調査研究、並びに調査研究の奨励・助成。
- 2 講演会、講習会、研究協議会、展覧会、制作会等の開催。
- 3 関係機関・団体との連絡。
- 4 その他必要な事項。

第 2 章 組 織

第 4 条 本会は、埼玉県内小中学校の美術教育に関する教職員をもって組織する。

第 3 章 役 員

第 5 条 本会に次の役員を置く。

- 1 連盟長 1 名
- 2 副連盟長 5 名
- 3 常任理事 若干名
- 4 理 事 若干名
- 5 監 事 2 名
- 6 幹 事 若干名

第 6 条 役員の仕事は、次のとおりとする。

- 1 連盟長は、本会を代表し、会務を総理し、各種会議等を召集する。
- 2 副連盟長は、連盟長を補佐し、連盟長に事故ある時はその職務を代理する。
- 3 常任理事は、常任理事会を構成し、会務の企画、執行するとともに、各地区と連絡の任に当たる。
- 4 理事は、理事会を構成し、総会から委任された事項について審議決定するとともに、各班との連絡の任にあたる。
- 5 監事は、会計を監査する。
- 6 幹事は、庶務会計をつかさどる。

第 7 条 役員を選出は、次のとおりとする。

- 1 連盟長、副連盟長、監事は、理事会で選出する。
- 2 常任理事は、各地区ごとに、小中学校 1 名を選出する。ただし、必要により若干名を増すことができる。
- 3 理事は、各班ごとに小中学校各 1 名を選出する。
- 4 常任理事、理事は兼ねることができる。

5 幹事は、連盟長が委嘱する。幹事のうち 1 名を事務局長とする。

第 8 条 役員の仕事は 2 年とする。ただし、再任を妨げない。補欠役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

第 9 条 本会に顧問を置くことができる。

第 4 章 機 関

第 10 条 本会に、次の機関を置く。

1 総会 2 理事会 3 常任理事会

第 11 条 総会は、毎年一回開催する。ただし、必要により臨時に開催することができる。

1 総会では、次の事項について、審議決定する。

- (1) 会務の報告ならびに決算。
- (2) 事業計画ならびに予算。
- (3) 会則の変更、その他必要な事項。

2 総会は、必要により、理事会をもって、これにかえることができる。

第 12 条 理事会は、次の事項について審議する。

- 1 会務の報告ならびに決算。
- 2 事業計画ならびに予算。
- 3 会則の変更、その他必要な事項。

第 13 条 常任理事会は、次のことを行う。

- 1 各種原案の作成。
- 2 総会、理事会決定事項の処理。
- 3 その他必要な事項。

第 14 条 本会は、会務を処理するため、次の専門部を設ける。ただし、必要により臨時に専門委員会を設けることができる。

1 研究部 2 事業部 3 編集部

第 15 条 各専門部ならびに専門委員会の構成は理事会で定める。

第 5 章 会 計

第 16 条 本会の経費は、埼玉県連合教育研究会の配分金をもって充てる。

第 17 条 本会の会計年度は、4 月 1 日より翌年 3 月 31 日までとする。

付 則 本会則は昭和 25 年 5 月 1 日から施行する。

本会則は昭和 50 年 5 月 14 日から改正施行する。

本会則は昭和 55 年 6 月 10 日から改正施行する。

本会則は平成 12 年 8 月 9 日から改正施行する。

本会則は平成 16 年 6 月 11 日から改正施行する。

令和4年度 事業概要

I 研究主題と方針

1 研究主題

造形教育の新天地！ワイワイ埼玉 Artlearntis

2 活動方針

- (1) 本年度の研究テーマは「造形教育の新天地！ワイワイ埼玉 Artlearntis」とする。
- (2) 子どもの心と力をどのように見取っていくかを研究し、示していく。
- (3) 令和5年（2023年）の「関プロ大会」に向けて、未来をひらく授業づくりにつながる提案、目玉になるような提案を埼玉から発信できるよう準備していく。

II 活動状況

会則に基づき、次の事業を行った。

なお、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの展覧会や会議等が中止や延期、あるいは内容等が変更となった。

- 4月15日（金）正副連盟長・事務局会議 オンライン
- 5月11日（水）役員研修会（常任理事会） 書面開催
- 5月25日（水）埼玉県教育連合発足会 オンライン
- 6月10日（金）総会 書面開催
- 6月11日（土）関プロ代表者会議 オンライン
- 7月26日（火）関プロ運営委員会 オンライン
- 8月4日（木）夏季研修会 オンライン
- 8月18日（木）身障者福祉美術展中央審査
[埼玉県障害者交流センター]
- 9月26日（月）関プロ運営委員会 オンライン
- 10月5日（水）正副連盟長・事務局会議 オンライン
- 10月12日（水）郷土展中央審査
[蓮田市総合市民体育館パルシー]
- 11月5日（土）・6日（日）
第64回身障者福祉美術展
[本庄市民文化会館]
- 11月16日（水）第63回関東甲信越静地区造形教育大会
埼玉大会経過報告会 オンライン
- 11月11日（金）第61回関東甲信越静地区
造形教育研究大会新潟大会 オンライン
- 12月6日（火）関プロ運営委員会 オンライン
- 12月24日（土）・25日（日）
第57回郷土展中央展
[埼玉県立近代美術館]

- 1月下旬 第63回埼玉県児童生徒美術展
[県下10会場]
- 2月1日（水）正副連盟長・事務局会議 オンライン
- 2月15日（水）県美術展第15回中央展審査
[埼玉県立近代美術館]
- 2月17日（金）役員研修会（理事会） 書面開催
- 2月18日（土）・19日（日）県美術展第15回中央展

III 研究

第62回関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会
第63回埼玉県造形教育研究大会 経過報告会

(1) 大会テーマ

造形教育の新天地！ワイワイ埼玉 Artlearntis

(2) 趣旨

先行きが不確実で予測の困難な時代の大海原に漕ぎ出していく子どもたちにとって、“Art”による“learn（学び）”は、豊かに生きる力を育む教育として見直されつつある。作品主義への反省、資質・能力の育成、創造力や造形的視点の獲得、生活や社会との関わりなど、新たな造形教育の在り方も模索されている。

埼玉の造形教育は、これまでも“子どもの心”、“確かな力”、“生き生き授業”（3つの追究観点）を羅針盤にしてチャレンジし続けてきた。本大会を契機に、未来をひらき、子どもたちの希望となるような造形教育の新天地（Artlearntis: Art, learn, transformation, inclusion, sustainability）を求めて船出する。

従来の造形教育を乗り越え、新たな造形教育を創造するためにも、また、時代の担い手を育てるためにも、様々な人々がつながり合い、互いの問題意識をぶつけ合い、抱えている課題を共有して、知恵と情熱を響かせ合うような大会をめざしたい。埼玉には海はないけれど、みんなで荒波にもまれながら、“ワイワイ”進んでいこう。諸人集え、埼玉へ！

(3) 主催 埼玉県造形教育連合

(4) 集会許可 埼玉県教育委員会

さいたま市教育委員会

(5) 期日 令和4年11月16日（水）

IV 児童生徒美術展の開催

- 1 第64回身体障害者福祉のための美術展
 - (1) 主催 社会福祉法人身体障害者福祉協会
共催 埼玉県美術教育連盟
 - (2) 地区審査
県下10地区で地区審査が行われ、入選・特選作品が選ばれた。
 - (3) 中央審査
令和4年8月18日(木)埼玉県障害者交流センターで地方審査特選作品の中から、特別賞70点が選ばれた。
 - (4) 展覧会期・会場
会期 令和4年11月5日(土)
・11月6日(日)
会場 本庄市 本庄市民文化会館
- 2 第57回郷土を描く児童生徒美術展
 - (1) 主催 埼玉県 埼玉県校外教育協会
埼玉県教育委員会
埼玉県芸術文化祭実行委員会
共催 さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
埼玉県美術教育連盟
 - (2) 地区審査
県下10地区で地区審査が行われ、入選作品と特選作品が選出された。
 - (3) 中央審査
令和4年10月12日(水)蓮田市総合市民体育館パルシーにおいて地区審査で選ばれた特選作品の中から埼玉県知事賞122点が選ばれた。
 - (4) 展覧会期・会場・表彰式
会期 令和4年12月24日(土)
・12月25日(日)
会場 埼玉県立近代美術館
表彰式 11月14日(月)埼玉会館において知事賞作品は展示・表彰される。
- 3 第63回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展
 - (1) 主催 埼玉県教育委員会
埼玉県美術教育連盟
さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
 - (2) 展覧会期・会場
会期 1月下旬～2月上旬
会場 県下10地区10会場
 - (3) 地区審査
各学校から平面1立体1の特選作品を出品し、特に優れた作品を各地区で選考。
(全県で平面作品50点・立体作品50点)
- 4 第63回埼玉県小・中学校等児童生徒美術展第15回中央展覧会
 - (1) 主催 埼玉県教育委員会
埼玉県美術教育連盟
さいたま市教育委員会
埼玉県市町村教育委員会連合会
 - (2) 展覧会期・会場
会期 令和5年2月18日(土)
・2月19日(日)
会場 埼玉県立近代美術館
 - (3) 審査
会期 令和5年2月15日(水)
会場 埼玉県立近代美術館

埼玉県美術教育連盟の足跡を顧みて

1. 昭19年 美術教育研究会発足。
2. 昭22年 埼玉県美術教育連盟発足。
初代連盟長に竹野谷仁重氏、副連盟長に町田源三郎氏就任。
3. 昭24年 埼玉県児童生徒写生コンクール19会場で実施。研究会を行う。
4. 昭25年 児童生徒美術展を教育委員会と共催（岩槻中）。連盟の規約決まる。
5. 昭26年 指導要領講習会。児童生徒美術展。
6. 昭27年 巡回展が県下8ブロックに分かれ開かれる。鑑賞評価の研究会（川越第三小）。
7. 昭30年 中学校研究協議会開催。研究指定校発表会。全国図工教育大会（東京）参加。個人研究発表会。
8. 昭31年 版画実技講習会を開く（埼大）。
9. 昭32年 研究発表会（埼大附小）。身体障害者福祉のための児童生徒美術展開催。
10. 昭33年 美術連盟10周年祝賀会。中学校美術振興対策（時間数各学年2時間の確保）。
11. 昭34年 第1回ゼミナールを長瀬大正亭旭家会場で実施〈図工教育振興のための問題〉。画用紙の研究。
12. 昭35年 第2回ゼミナール開催（大宮市立文化会館）〈絵画・版画・彫塑について〉。
13. 昭36年 第2代連盟長に町田源三郎氏就任。第3回ゼミナール開催（武蔵野荘）〈現場の実践をもとに討議する〉。デザイン工作研究部ができる。
14. 昭37年 第4回ゼミナール開催（熊谷西小）〈指導法を中心に話し合う〉。
全国大会参加（富山）。美連研究指定校（深谷藤沢中）。
15. 昭38年 第1回造形工作指導者研修会（武蔵野荘）。第5回ゼミナール実施（野上青年の家）〈表現を高めるための指導〉。県・美連研究委嘱校発表（大宮東中）。
16. 昭39年 第6回ゼミナール実施（文化会館）〈図工教育の反省—今後のあり方について〉。
17. 昭40年 第7回ゼミナール実施（熊谷福祉センター）〈用具・資料・設備について〉。
美術国際会議に代表参加（東京）。研究委嘱校発表会（蕨東中）。
18. 昭41年 第3代連盟長に斎藤誠氏就任。小・中学校の図工・美術科の基準を定める。
第8回ゼミナール開催（大宮文化会館）。
埼玉身連展（旧美術館）。郷土を描く美術展を新装埼玉会館で開催。全国大会参加（盛岡）。
関ブロ大会参加（千葉）。
19. 昭42年 第9回ゼミナール（加須青年の家）〈物の見方・感じ方を深め追求する態度を養う指導は
どうしたらよいか〉。
全国大会参加（新潟）。
20. 昭43年 第4代連盟長に新井邦雄氏就任。第10回埼玉県造形教育研究大会（武蔵野会館）〈指導
上の問題点とその究明〉。全国大会参加（高知）。関ブロ大会参加（茨城）。美連研究指定
校発表会（杉戸中）。指導者研修会（加須青年の家）。
21. 昭44年 指導者研修会（岩槻青年の家）。全国大会参加（沖縄）。関ブロ大会参加（高崎）。研究指
定校発表会（古谷小）。第11回埼玉県大会を関ブロのリハーサルをかねて開催（埼玉）。
第4回郷土を描く美術展（川越市立月越小）。第11回身障者福祉のための美術展（戸田
市東部福祉センター）。第10回県児童生徒美術展（県下9会場）。第32回全国（仙台
市）・第19回関ブロ（前橋市）への参加。
22. 昭45年 第10回関東甲信越静地区造形教育研究埼玉大会開催（浦和・大宮・川口市）。
第12回身障者福祉のための児童生徒美術展（熊谷市民ホール）。全国大会参加（秋田）。
文部省・県美連委嘱校図画工作科研究発表会（喜沢小）。郷土を描く美術展（埼玉会館・
熊谷市民ホール）。第11回県児童生徒美術展（県下8会場）。

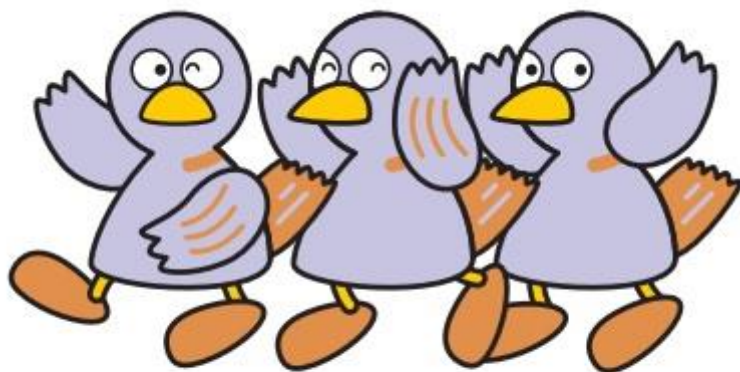
23. 昭46年 深谷班小学校図画工作科研究中間発表会（明戸小）。小学校図画工作科実技研修会（県下10会場）。郷土を描く美術展（県下5会場）。深谷班小学校図画工作科研究発表会（深谷小・桜丘小・岡部小・豊里西小）。新座中学校美術科研究発表会。熊谷西小学校図画工作科研究発表会。第13回埼玉県造形教育研究大会（粕壁小・春日部中・埼玉葛会館）。第13回身障者福祉のための児童生徒美術展。埼玉県児童生徒美術展。第11回関ブロ大会参加（静岡）。
24. 昭47年 第12回関ブロ大会参加（甲府）。小中学校図画工作・美術科実技研修会（版画・工作・工芸）。埼玉の美術発行。第25回全国大会東京に参加。郷土を描く美術展開催。第14回埼玉県造形教育研究大会（深谷小・深谷中）。第14回障害者福祉のための美術展。第14回埼玉県児童生徒美術展開催。
25. 昭48年 創立25周年記念研究発表会・祝賀会（武蔵野会館）。図工・美術科実技研修会（デザイン・工作・工芸）。第13回関ブロ大会参加（鎌倉）。第8回郷土を描く美術展。第15回身障者福祉のための美術展（加須）。研究委嘱校発表会（大原中・柳瀬中・和光三小）。第15回埼玉県造形教育研究大会（川越）。教材整備状況実態調査。美連ニュース発行（年2回）。第15回県児童生徒美術展。
26. 昭49年 教材実技研修会。第14回関ブロ大会参加（松本）。全国大会参加（和歌山）。第16回身障者福祉のための美術展（松山一小）。第9回郷土を描く美術展。第16回埼玉県造形教育研究大会（草加小）。専門部開催（3回）。美連ニュース発行（2回）。第16回県児童生徒美術展。
27. 昭50年 教材実技研究会。第15回関ブロ大会参加（宇都宮）。全国大会参加（山形市）。第17回身障者福祉のための美術展（桶川北小）。第10回郷土を描く美術展。第17回埼玉県造形教育研究大会（松山一小・市の川小・松山中）。第17回県児童生徒美術展。
28. 昭51年 第5代連盟長に須藤嘉彦氏就任。研究委嘱校発表（毛呂山川角小・戸田喜沢中・岩槻中）。全国・関ブロ大会企画委員会。第18回県造形教育研究大会（羽生小・羽生中）。身障者福祉のための美術展。郷土を描く美術展。第18回全国大会準備会。
29. 昭52年 研究委嘱校発表会（戸田喜沢中・鴻巣中）。夏季実技講習会（県下16会場）。郷土を描く美術展。身障者福祉のための美術展。第19回県児童生徒美術展。第19回造形大会…全国・関ブロ造形プレ大会（埼玉会館・浦和市民会館）。
30. 昭53年 第31回全国造形教育研究・第18回関ブロ造形教育研究埼玉大会・第20回埼玉県造形教育研究大会（川口市民会館・埼玉会館ほか）開催。第13回郷土を描く美術展（埼玉会館）。第20回身障者福祉のための美術展（和光第三小）。第19回県児童生徒美術展（県下9会場）。
31. 昭54年 第6代連盟長に高山靖男氏就任。第21回埼玉県造形教育研究大会（杉戸町立杉戸小）。
32. 昭55年 第22回埼玉県造形教育研究大会（本庄市中央公民館）。第15回郷土を描く美術展（羽生市立西中）。第22回身障者福祉のための美術展（熊谷市立新堀小）。第21回県児童生徒美術展（県下9会場）。第33回全国（名古屋市）・第20回関ブロ（沼津市）参加。
33. 昭56年 第23回埼玉県造形教育研究大会（皆野町いこいの村）。第16回郷土を描く美術展（大芦小）。第23回身障者福祉のための美術展（東松山市中央公民館）。第22回県児童生徒美術展（県下9会場）。第34回全国・第21回関ブロ（長岡市）参加。
34. 昭57年 第24回埼玉県造形教育研究大会（深谷市厚生会館ほか）。第17回郷土を描く美術展（久喜小）。第24回身障者福祉のための美術展（羽生市立西中）。第23回県児童生徒美術展（県下9会場）。研究委嘱校発表（蓮田中央小）。第35回全国（武雄市）・第22回関ブロ（甲府市）参加。
35. 昭58年 第25回埼玉県造形教育研究大会（飯能市中央公民館）。第18回郷土を描く美術展（戸田郷土博物館）。第25回身障者福祉のための美術展（北本南小）。第24回県児童生徒美術展（県下9会場）。第36回全国（東京都）・第23回関ブロ（横浜市）参加。

36. 昭59年 第26回埼玉県造形教育研究大会（北本市文化センター）。第19回郷土を描く美術展（秩父市立南小）。第26回身障者福祉のための美術展（児玉小）。第25回県児童生徒美術展（県下9会場）。第37回全国・第24回関ブロ（長野県上山田町）参加。
37. 昭60年 第27回埼玉県造形教育研究大会（東松山市中央公民館）。第20回郷土を描く美術展（寄居小）。第27回身障者福祉のための美術展（所沢小）。第26回県児童生徒美術展（県下9会場）。第38回全国（奈良町）・第25回関ブロ（豊島区）参加。
38. 昭61年 第28回埼玉県造形教育研究大会（加須青年の家）。第21回郷土を描く美術展（東松山市立新明小）。第28回身障者福祉のための美術展（杉戸小）。第27回県児童生徒美術展（県下9会場）。研究委嘱校発表（川口在家中）。第39回全国（北海道旭川）・第26回関ブロ（桐生市）参加。
39. 昭62年 第7代連盟長に橋本利夫氏就任。第29回埼玉県造形教育研究大会（川口市）。第22回郷土を描く美術展（本庄西小）。第29回身障者福祉のための美術展（秩父尾田蒔小）。第28回県児童生徒美術展（県下9会場）。研究委嘱校発表（浦和市立神田小）。第40回全国・第27回関ブロ（千葉市）参加。
40. 昭63年 第30回埼玉県造形教育研究大会（久喜小）。第23回郷土を描く美術展（所沢明峰小）。第30回身障者福祉のための美術展（新座大正小）。研究委嘱校発表（羽生南小）。第29回県児童生徒美術展（県下9会場）。第41回全国（愛媛）・第28回関ブロ（上越市）参加。
41. 平成元年 第31回埼玉県造形教育研究大会（本庄市中央公民館ほか）。第24回郷土を描く美術展（加須市市民福祉会館）。第31回身障者福祉のための美術展（深谷小）。第30回県児童生徒美術展（県下9会場）。研究委嘱校発表（上尾西中）。第42回全国（青森）・第29回関ブロ（浜松市）参加。
42. 平成2年 第8代連盟長に岡安正治氏就任。研究テーマ「感性を高め創造する力を育む造形教育」のもと、第32回埼玉県造形教育研究大会を第31回関ブロ埼玉大会のプレ大会として開催（浦和市文化センターほか）。第25回郷土を描く美術展（上尾コミュニティーセンター）。第32回身障者福祉のための美術展（東松山市立松山第一小）。第31回県児童生徒美術展（県下9会場）。研究委嘱校発表（久喜青葉小）。第43回全国（熊本）・第30回関ブロ（水戸市）参加。
43. 平成3年 第31回関東甲信越静地区造形教育研究大会埼玉大会・第33回埼玉県造形教育研究大会を浦和市文化センターを中心として開催。同時に研究委嘱校（浦和田島中・浦和大牧小）発表。第26回郷土を描く美術展（久喜小）。第33回身障者福祉のための美術展。第32回県児童生徒美術展（県下9会場）。第44回全国（東京都）参加。
4 専門部のうち庶務部を事務局に吸収し、研究部・編集部・事業部の3専門部体制とする。
44. 平成4年 第34回埼玉県造形教育研究大会秩父大会（秩父影森小・中）。第27回郷土を描く美術展（朝霞コミュニティーセンター）。第34回身障者福祉のための美術展（JACK 大宮）。第33回県児童生徒美術展（県下9会場）。研究委嘱校発表（大宮馬宮東小）。第45回全国（京都）・第32回関ブロ（山梨）参加。
45. 平成5年 第9代連盟長に中村善之助氏就任。第35回埼玉県造形教育研究大会大里大会（深谷小・深谷幡羅中ほか）。第28回郷土を描く美術展（秩父西小）。第35回身障者福祉のための美術展（本庄東小）。研究委嘱校発表（所沢中央中）。第34回県児童生徒美術展（県下9会場）。第46回全国（沖縄那覇市）・第33回関ブロ（栃木）参加。新研究テーマ検討。
46. 平成6年 第10代連盟長に内田敬氏就任。研究テーマ「子どもの思いや願いが生きる授業を求めて」のもと、第36回埼玉県造形教育研究大会入間地区大会（所沢市文化センターほか）開催。第36回身障者福祉のための美術展（春日部上沖小）。第29回郷土を描く美術展

- (熊谷石原小)。研究委嘱校発表(蓮田黒浜北小)。第35回県児童生徒美術展(県下9会場)。第47回全国・第34回関ブロ神奈川大会(横浜市)参加。
47. 平成7年 第37回埼玉県造形教育研究大会北足立北部大会(上尾市福社会館、上尾芝川小、上尾南中)開催。第37回身障者福祉のための美術展(坂戸中央公民館)。第30回郷土を描く美術展(小川町立小川小)。研究委嘱校発表(東松山桜山小)。第36回県児童生徒美術展(県下9会場)。第48回全国・第35回関ブロ長野大会(飯田市ほか)参加。
48. 平成8年 第11代連盟長に山屋敬典氏就任。第38回埼玉県造形美術研究大会比企大会(東松山市立南活動センター)開催。第38回身障者福祉のための美術展(秩父西小)。第31回郷土を描く美術展(本庄中央小)。研究委嘱校発表(東松山桜山小)。第37回県児童生徒美術展(県下9会場)。第49回全国・第36回関ブロ東京大会(中野区ほか)参加。教材開発研修会開催。
49. 平成9年 第39回埼玉県造形教育研究大会北埼玉大会(加須大桑小学校、加須東中学校、加須平成中学校)開催。第39回身障者福祉のための美術展(浦和市立プラザイースト)。第32回郷土を描く美術展(入間市博物館アリット)。研究委嘱校発表(浦和大門小)。第38回埼玉県児童生徒美術展(県下9会場)。第37回関ブロ群馬大会(前橋市ほか)参加。教材開発研修会開催(埼玉県立近代美術館)。
50. 平成10年 第40回埼玉県造形教育研究大会埼玉大会(岩槻市立岩槻小学校)開催。第40回身障者福祉のための美術展(熊谷文化創造館)。第33回郷土を描く美術展(行田グリーンアリーナ)。第39回県児童生徒美術展(県下9会場)。第38回関ブロ千葉大会参加。教材開発研修会開催(埼玉県立近代美術館ほか)。
51. 平成11年 第12代連盟長に五井修氏就任。第41回埼玉県造形教育研究大会を第52回全国造形教育研究大会・第39回関東甲信越静地区造形教育研究大会をかね、浦和市・大宮市を会場に開催。第41回身障者福祉のための美術展(東松山市南地区体育館)。第34回郷土を描く美術展(上尾市市民体育館)。第40回県児童生徒美術展(県下9会場)。
52. 平成12年 第13代連盟長に馬場恒安氏就任。第42回埼玉県造形教育研究大会I(教材開発・埼玉県立近代美術館)開催。第42回身障者福祉のための美術展(羽生市民プラザ)。第42回埼玉県造形教育研究大会II(本庄中央公民館・市民文化会館)開催。第35回郷土を描く美術展(杉戸町立杉戸小学校)。第41回県児童生徒美術展(県下9会場)。
53. 平成13年 第14代連盟長に三澤文人氏就任。第43回埼玉県造形教育研究大会I(教材開発・羽生市民プラザ)開催。第43回身障者福祉のための美術展(川口ロリア)。第43回埼玉県造形教育研究大会II(さいたま市立高砂小・うらわ美術館・さいたま市市民会館うらわ)開催。第36回郷土を描く美術展(さいたま市立桜木小)。第42回県児童生徒美術展(県下10会場)。
54. 平成14年 第44回埼玉県造形教育研究大会I(教材開発・横瀬町町民会館)開催。第44回身障者福祉のための美術展(杉戸町立杉戸小学校)。第44回埼玉県造形教育研究大会II(狭山市立入間川東小学校・狭山市立市民会館)開催。第37回郷土を描く美術展(深谷市立上柴公民館)。第43回県児童生徒美術展(県下10会場)。
55. 平成15年 第15代連盟長に松本晃氏就任。第45回埼玉県造形教育研究大会I(教材開発・本庄市立旭小学校)開催。第45回身障者福祉のための美術展(上尾市立鴨川小学校)。第45回埼玉県造形教育研究大会I(熊谷市立大幡小学校)開催。第38回郷土を描く美術展(羽生コミュニティセンター)。第44回県児童生徒美術展(県下10会場)。
56. 平成16年 第16代連盟長に野澤優氏就任。第46回埼玉県造形教育研究大会I(教材開発・羽生市民プラザ)開催。第46回身障者福祉のための美術展(狭山市立柏原小学校・中学校)。第46回埼玉県造形教育研究大会II(春日部市立宮川小学校・豊春中学校)開催。第39回郷土を描く美術展(さいたま市文化センター)。第45回県児童生徒美術展(県下1

- 0会場)。
57. 平成17年 第47回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・上尾市文化センター)開催。第47回身障者福祉のための美術展(上里町立上里東小学校)。第47回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(川口市立十二月田小・中学校)。第40回郷土を描く美術展(秩父市吉田取方総合運動公園体育館)。第46回県児童生徒美術展(県下10会場)。
58. 平成18年 第17代連盟長に茅野憲一氏就任。第48回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・川越市やまぶき会館)開催。第48回身障者福祉のための美術展(羽生市羽生市民プラザ)。第48回埼玉県造形教育大会Ⅱ(東松山市立松山第一小・松山中)。第41回郷土を描く美術展(熊谷市彩の国くまがやドーム)。第47回県児童生徒美術展(県下10会場)。
59. 平成19年 埼玉県美術教育連盟発足60周年。第49回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・深谷市民文化会館・深谷小学校)開催。第49回身障者福祉のための美術展(さいたま市うらわ美術館)。第49回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(本庄市立本庄南中学校・北泉小学校)。第42回郷土を描く美術展(久喜市立久喜小学校)。第48回県児童生徒美術展(県下10会場)。埼玉県児童生徒美術展中央展開催。(埼玉県立近代美術館・平面のみ展示。翌年より立体も含め第1回展として開催)。60周年記念会報発行。
60. 平成20年 第18代連盟長に石田拓喜氏就任。第50回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・八潮市メセナ)開催。第50回身障者福祉のための美術展(戸田市文化会館)。第50回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(加須市立加須小学校・加須平成中学校)。第43回郷土を描く美術展(さいたま市文化センター)。第49回県児童生徒美術展(県下10会場)。第1回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
61. 平成21年 第51回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・さいたま市市民会館うらわ・本太小学校)開催。第51回身障者福祉のための美術展(東松山市民体育館)。第51回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(さいたま市立植竹中学校・大砂土小学校)。第44回郷土を描く美術展(鴻巣市立鴻巣中央小学校)。第50回県児童生徒美術展(県下10会場)。第2回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
62. 平成22年 第19代連盟長に笠原秀夫氏就任。第52回埼玉県造形教育研究大会Ⅰ(教材開発・戸田市立芦原小学校)開催。第52回身障者福祉のための美術展(熊谷市彩の国くまがやドーム)。第52回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(鴻巣市立大芦小学校)。第45回郷土を描く美術展(杉戸町立杉戸小学校)。第51回県児童生徒美術展(県下10会場)。第3回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
63. 平成23年 第53回埼玉県造形教育大会Ⅰ(教材開発・熊谷市立妻沼中央公民館、熊谷市立妻沼東中学校)開催。第53回身体障害者福祉のための美術展(羽生市民プラザ)。第53回埼玉県造形教育研究大会Ⅱ(秩父市立南小学校、秩父市立秩父第二中学校)。第46回郷土を描く美術展(吉見町民体育館)。第52回県児童生徒美術展(県下10会場)。第4回埼玉県児童生徒美術展中央展開催(埼玉県立近代美術館)。
64. 平成24年 第20代連盟長に村上博俊氏就任。第52回関東甲信越静地区造形教育研究大会・第54回埼玉県造形教育研究大会(所沢市所沢市民文化センターミュージズ他)開催。第54回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(さいたま市文化センター)。第47回郷土を描く美術展(秩父市吉田取方総合運動公園体育館)。第53回県児童生徒美術展(県下10会場)。第5回県児童生徒美術展中央展(埼玉県立近代美術館)。
65. 平成25年 第55回埼玉県造形教育大会Ⅰ(教材開発・行田市教育文化センター「みらい」)開催。第55回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(上尾市立富士見小学校)開催。第55回埼玉県造形教育大会Ⅱ(春日部市立八木崎小学校、春日部中学校)。第48回郷土を描く美術展(プラザノース ノースギャラリー)。第54回県児童生徒美術展(県下10会場)。第6回県児童生徒美術展中央展(うらわ美術館)。
66. 平成26年 第21代連盟長に矢嶋廣明氏就任。第56回埼玉県造形教育大会Ⅰ(教材開発・埼玉大

- 学教育学部附属小学校)開催。第56回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(本庄市立本庄東小学校)。第56回埼玉県造形大会Ⅱ(さいたま市立浦和大里小学校)。第49回郷土を描く美術展(川口市立本町小学校)。第55回県児童生徒美術展(県下10会場)。第7回児童生徒美術展中央展(川越市立美術館)。
67. 平成27年 第57回埼玉県造形教育大会(戸田市立芦原小)開催(本年度より大会Ⅰ・Ⅱを一本化)。第57回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(県障害者交流センター)。第50回郷土を描く美術展(熊谷市スポーツ文化村 くまびあ体育館)。第56回県児童生徒美術展(県下10会場)。第8回児童生徒美術展中央展(埼玉県立近代美術館)。
68. 平成28年 第22代連盟長に関根隆之氏就任。第58回埼玉県造形教育大会(深谷市上柴公民館)開催。第58回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(蓮田市立平野小学校)。第51回郷土を描く美術展(坂戸市総合運動公園小体育館)。第57回県児童生徒美術展(県下10会場)。第9回児童生徒美術展中央展(埼玉県立近代美術館)。
69. 平成29年 第59回埼玉県造形教育研究大会(東松山市高坂小学校)開催。第59回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(戸田市文化会館)。第52回郷土を描く美術展(行田市総合体育館:行田グリーンアリーナ)。第58回県児童生徒美術展(県下10会場)。第10回児童生徒美術展中央展(埼玉県立近代美術館)。
70. 平成30年 第23代連盟長に加藤修氏就任。第60回埼玉県造形教育研究大会(蓮田市総合文化会館ハストピア及び蓮田市総合市民体育館パルシー)開催。第60回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(さいたま市プラザノース)。第53回郷土を描く美術展(県民活動総合センター)。第59回県児童生徒美術展(県下10会場)。第11回児童生徒美術展中央展(埼玉県立近代美術館)。
71. 平成31年(令和元年) 第24代連盟長に中川昇次氏就任。第61回埼玉県造形教育研究大会(埼玉大学教育学部附属小学校)開催。第61回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(東松山市南地区体育館)。第54回郷土を描く美術展(本庄市立本庄東小学校)。第60回県児童生徒美術展(県下10会場)。第12回児童生徒美術展中央展(埼玉県立近代美術館)。
72. 令和2年 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため埼玉県造形教育研究大会は次年度に延期。身体障害者福祉のための児童生徒美術展は中止、県児童生徒美術展(県下10会場)及び中央展も中止。各地区審査会及び中央審査会は実施。第55回郷土を描く美術展(埼玉県立近代美術館)は開催。
73. 令和3年 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため埼玉県造形教育研究大会はZOOMによるオンライン開催。1日の日程でPart1 授業実践研究のみ実施。第63回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(加須市大利根文化体育館)。第56回郷土を描く美術展(埼玉県立近代美術館)。県児童生徒美術展(県下10会場)及び中央展は中止。各地区審査会及び中央審査会は実施。
74. 令和4年 第25代連盟長に勝山寛美氏就任。埼玉県造形教育連合発足。夏季研修会(オンライン)。第62回関東甲信越静地区造形教育大会埼玉大会・第63回埼玉県造形教育研究大会経過報告会。第64回身体障害者福祉のための児童生徒美術展(本庄市民文化会館)。第57回郷土を描く美術展(埼玉県立近代美術館)。県児童生徒美術展(県下10会場)及び第15回中央展(埼玉県立近代美術館)。



埼玉県のマスコット コバトン

美 連 令和4年度
編集・発行 埼玉県美術教育連盟 勝 山 寛 美